

令和4年度

埋蔵文化財調査年報



養父市三月野古墳群

令和6（2024）年3月
兵庫県立考古博物館

例 言

1. 本書は令和4年度に兵庫県教育委員会・公益財団法人兵庫県まちづくり技術センターが実施した埋蔵文化財調査事業にかかる年報である。
2. 発掘調査及び出土品整理については、兵庫県立考古博物館が調整業務を行い、兵庫県教育委員会が公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部に委託して実施した。それ以外の事業については兵庫県教育委員会・兵庫県立考古博物館・公益財団法人兵庫県まちづくり技術センターが協力して実施した。
3. 「発掘調査事業の概要」は旧国別に編集し、摂津、播磨、但馬、淡路の順に掲載している。
4. 本文中の事業者および事業名は発掘調査実施当時の名称としている。
5. 本文中に使用した遺跡の位置図は、国土地理院発行の電子地形図25000を使用している。
6. 遺跡調査番号は各年度の発掘調査毎に個別に付した番号であり、令和4年度は「2022」で始まる7桁の数字で表記している。
7. 本書は発掘調査成果を速やかに公表することを目的として刊行するものであり、調査成果についてはまだ十分な検討を終えていない。このため今後の出土品整理により、本書の記載内容と異なる検討結果が得られる可能性がある。その際は後日刊行される発掘調査報告書をもって内容の修正を行うものである。

目 次

第1章 埋蔵文化財調査事業の概要	1
1 調査の体制	1
2 発掘調査事業の動向	1
3 出土品整理事業の動向	1
4 調査一覧	2
第2章 発掘調査事業の概要	5
1 津門大塚町遺跡（西宮市）	6
2 南町遺跡（伊丹市）	11
3 曙町遺跡（神戸市西区）	13
4 山国・大丹波遺跡（加東市）	16
5 上戸田遺跡（西脇市）	18
6 才村遺跡（姫路市）	21
7 郷着遺跡（姫路市）	25
8 沖代遺跡（揖保郡太子町）	28
9 生野鉾山（朝来市）	33
10 生野鉾山（朝来市）	35
11 三月野古墳群（養父市）	37
12 初瀬谷・柏谷古墳群（美方郡新温泉町）	40
13 宇山遺跡（洲本市）	44
14 荒目遺跡（南あわじ市）	48
第3章 出土品整理事業の概要	52
第4章 市町支援事業の概要（市町埋蔵文化財発掘調査支援促進事業）	53
1 事業の概要	53
2 発掘調査の支援	53
3 市町職員研修	54
第5章 発掘調査・出土品整理にかかる普及公開事業の概要	55
1 現地説明会等の開催	55
2 発掘調査速報パネル展示	56
3 発掘調査の状況をHPで情報発信	56
4 発掘調査速報会の開催	57
5 ひょうごの遺跡の刊行	57
6 「発掘体験～掘ってみよう むかしの遺跡～」の実施	58
7 バックヤード見学ツアーの開催	59

第1章 埋蔵文化財調査事業の概要

1 調査の体制

平成24年度に調査部門である埋蔵文化財調査部を県立考古博物館から（公財）兵庫県まちづくり技術センター（以下、「センター」いう。）へ移管して以来、国及び県が実施する開発事業に伴う調整、発掘調査計画の策定、事業地内の埋蔵文化財の状況を把握するための分布調査・確認調査・小規模な本発掘調査及び工事立会については県立考古博物館総務部埋蔵文化財課（以下、「埋蔵文化財課」）が担当し、大規模な本発掘調査及び出土品整理作業については県教育委員会から委託を受けたセンター埋蔵文化財調査部が実施している。

それぞれの職員構成は、埋文課が5名、センター埋蔵文化財調査部が調査課2課と整理保存課の計3課で21名である。以下で説明するように、県新規採用職員の派遣、センターでの県OB職員・臨時的専門職員の任用により、発掘調査体制を整えた。

センター埋蔵文化財調査部職員の内訳は、13名が県派遣職員、6名が県OB職員、2名が臨時的専門職員である。また出土品整理については、32名の整理技術嘱託員が接合・復元・実測・保存処理等の作業を担当した。

2 発掘調査事業の動向

平成28年度は発掘調査量が激減し、平成以降最も少なくなったが、平成29年度には一転して増加し、その後は令和3年度まで横ばいとなっていたが、令和4年度は前年度に比べて減少した。これは西日本高速道路株式会社による国道2号（第二神明道路）建設や、県中播磨県民センター姫路土木事務所による事業間連携河川事業など、高規格道路や大規模治水事業に伴う発掘調査が終了したことによる。その他県事業に伴う発掘調査が一定量あったものの、大規模開発に伴う発掘調査は曲がり角に来ていると考えられる。

令和4年度に実施した調査は「4 調査一覧」のとおりである。内訳は本発掘調査が14件、分布調査が88件、確認調査が18件、工事立会が12件である。本発掘調査のうち10件はセンターが、4件については埋蔵文化財課が実施した。また、分布調査には埋蔵文化財課が実施したものに加え、学芸課が行った古代官道調査にかかるものが1件含まれている。センターが受託した本発掘調査10件の内訳は、国事業・他に伴う調査が2件、県事業に伴う調査が8件、受託事業の調査面積は約16,000㎡である。

3 出土品整理事業の動向

出土品整理事業については県教育委員会からの委託を受けたセンター埋蔵文化財調査部が実施した。国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所による北近畿豊岡自動車道建設、同兵庫国道事務所による西脇北バイパス建設など、過去の大型道路事業に伴う出土品整理を継続的に実施するとともに、県道路事業等に伴うものも含め、前年度並の事業量となった。

令和4年度に実施した出土品整理事業は20件、内訳は国事業が8件、県事業が8件、市町事業が2件である。うち7件について発掘調査報告書を刊行した。

4 調査一覧

1 本発掘調査

遺跡調査番号	遺跡名	所在地	事業者	事業名	調査期間			調査内容
2022001	曙町遺跡	神戸市西区曙町	兵庫県福祉部	ひょうご障害者総合トレーニングセンター（仮称）整備事業	2022/4/20	～	2022/6/22	古墳時代の集落と流路
2022002	初瀬谷・柏谷古墳群	美方郡新温泉町居組	但馬県民局新温泉土木事務所	地域連携推進（道路改築）事業（（国）178号浜坂道路Ⅱ期）	2022/5/9	～	2022/7/8	古墳時代の木棺直葬墳群
2022003	上戸田遺跡	西脇市上戸田	国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所	一般国道175号西脇北バイパス事業	2022/6/20	～	2022/8/9	弥生時代後期と古代の集落
2022004	三月野古墳群	養父市大塚	但馬県民局養父土木事務所	（砂）本郷谷川砂防えん堤工事	2022/8/16	～	2022/10/14	古墳時代後期の横六式石室
2022005	津門大塚町遺跡	西宮市津門大塚町	兵庫県病院局	兵庫県立西宮総合医療センター（仮称）整備	2022/7/13	～	2023/2/10	古墳時代の古墳群と集落、中世の集落と道路
2022006	宇山遺跡	洲本市宇山	国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所	一般国道28号洲本バイパス事業	2022/9/16	～	2022/10/27	中世の集落
2022007	荒日遺跡	南あわじ市八木養宜中	淡路県民局洲本土木事務所	県単独河川改良事業	2022/10/11	～	2023/1/20	弥生時代後期を中心とした集落
2022008	才村遺跡	姫路市広畑区才	中播磨県民センター姫路土木事務所	（一）広畑青山線 社会資本整備総合交付金事業	2022/11/2	～	2023/3/3	弥生時代後期から中世にかけての集落
2022009	沖代遺跡	揖保郡太子町沖代	西播磨県民局龍野土木事務所	（一）網干停車場新舞子線社会資本整備総合交付金事業	2022/11/24	～	2023/3/17	弥生時代の溝と古墳時代の集落
2022010	郷着遺跡	姫路市広畑区才	中播磨県民センター姫路土木事務所	（一）広畑青山線 社会資本整備総合交付金事業	2022/10/25	～	2022/11/11	弥生時代から古墳時代の溝と中世の溝
2022053	山国・大丹波遺跡	加東市山国	北播磨県民局加東土木事務所	（主）神戸加東線道路改良事業	2022/9/12	～	2022/9/22	古代の集落
2022065	南町遺跡	伊丹市南町	兵庫県住宅供給公社	伊丹南町団地建替事業（第2期）	2022/8/8	～	2022/9/9	古墳時代・古代の集落
2022066	生野鉾山	朝来市生野町奥銀谷	但馬県民局養父土木事務所	（砂）ウルシ谷川砂防堰堤工事	2022/8/4	～	2022/8/5	近世の坑道
2022067	生野鉾山	朝来市生野町口銀谷	但馬県民局養父土木事務所	（砂）寺の下川砂防堰堤工事	2022/9/26	～	2022/9/27	近世の坑道

2-1 分布調査

遺跡調査番号	遺跡名	所在地	事業者	事業名	調査期間			調査内容
2022014		朝来市山東町栗鹿	但馬県民局朝来農林振興事務所	復旧治山事業	2022/4/21			埋蔵文化財なし
2022015		朝来市和田山町加都	但馬県民局朝来農林振興事務所	山地災害重点地域総合対策事業	2022/4/21			埋蔵文化財あり
2022016		養父市八鹿町宿南	但馬県民局朝来農林振興事務所	県単独緊急防災事業	2022/4/21			埋蔵文化財なし
2022017		朝来市和田山町比治	但馬県民局養父土木事務所	（急）比治地区急傾斜地崩壊対策事業	2022/4/20			埋蔵文化財なし
2022018		朝来市和田山町弥生が丘	但馬県民局養父土木事務所	（砂）森ゴサ川通常砂防事業	2022/4/20			埋蔵文化財なし
2022019		朝来市和田山町東谷	但馬県民局養父土木事務所	通常砂防事業（砂）桧谷川	2022/4/20			埋蔵文化財なし
2022020		養父市森	但馬県民局養父土木事務所	（砂）大谷川通常砂防事業	2022/4/26			埋蔵文化財なし
2022021	市夜ヶ谷遺跡	養父市藪崎	但馬県民局養父土木事務所	（砂）市夜ヶ谷川通常砂防事業	2022/4/26			埋蔵文化財なし
2022022		養父市関宮	但馬県民局養父土木事務所	（急）相地急傾斜地崩壊対策事業	2022/4/26			埋蔵文化財なし
2022023	段ノ城構居、門前西1～4号墳、門前東1～8号墳	多可郡多可町中区門前	ひょうご農林機構県南事務所	緊急防災林整備（溪流対策）	2022/5/9			埋蔵文化財あり
2022024	鎌足神社周辺地区散布地	多可郡多可町加美区大袋	ひょうご農林機構県南事務所	緊急防災林整備（溪流対策）	2022/5/9			埋蔵文化財あり
2022025	景雲寺古墳群	たつの市揖西町	西播磨県民局龍野土木事務所	（一）揖保川水系景雲寺川(2)通常砂防事業	2022/5/10			埋蔵文化財あり
2022026		たつの市菅田町福田	西播磨県民局龍野土木事務所	（急）福田(1)地区急傾斜地崩壊対策事業	2022/5/10			埋蔵文化財なし
2022027	笹山遺跡	たつの市菅田町福田	西播磨県民局龍野土木事務所	（一）揖保川水系福田川(1)通常砂防事業	2022/5/10			埋蔵文化財なし
2022030		丹波篠山市福住	丹波県民局丹波土木事務所	通常砂防事業 上ノ山谷川	2022/6/15			埋蔵文化財あり
2022031	山端城跡	丹波市山南町和田	丹波県民局丹波土木事務所	急傾斜地崩壊対策事業 和田地区	2022/6/15			埋蔵文化財なし
2022032		丹波市春日町長王	丹波県民局丹波農林振興事務所	県単独緊急防災事業	2022/6/15			埋蔵文化財なし
2022035	黒井城跡	丹波市春日町稲塚	丹波県民局丹波農林振興事務所	予防治山事業	2022/6/2			埋蔵文化財あり
2022036		芦屋市宮川町～若宮町	国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所	国道43号芦屋宮川他電線共同溝工事	2022/6/1	～	2022/6/24	埋蔵文化財なし
2022037	上喰池遺跡	神戸市西区平野町	ネクスコ西日本高速道路株式会社 関西支社第2神明道路事務所	一般国道2号（第2神明道路）建設事業	2022/6/6			埋蔵文化財あり
2022038		洲本市五色町鮎原	淡路県民局洲本土木事務所	（主）洲本五色線道路改良事業	2022/6/8			埋蔵文化財なし
2022039	竹万1～12号墳	たつの市揖西町福住	西播磨県民局龍野土木事務所	（砂）住吉川砂防事業	2022/6/22			埋蔵文化財なし
2022040	小犬丸遺跡（布勢駅家）	たつの市揖西町小犬丸	西播磨県民局龍野土木事務所	（砂）東村(3)川	2022/6/22			埋蔵文化財あり
2022041	徳川大阪城東六甲採石場	西宮市老松町	兵庫県住宅供給公社	県営西宮老松住宅建築工事	2022/5/26			埋蔵文化財あり

2-2 分布調査

遺跡調査番号	遺跡名	所在地	事業者	事業名	調査期間		調査内容
2022042		豊岡市高屋	但馬県民局豊岡土木事務所	砂防事業（砂）左支浜第二	2022/6/20		埋蔵文化財なし
2022043	大丈権寺院跡	豊岡市小島	但馬県民局豊岡土木事務所	砂防事業（砂）小島神社川Ⅰ	2022/6/20		埋蔵文化財なし
2022044	福住茶臼山１・２号墳	豊岡市出石町福住	但馬県民局豊岡土木事務所	急傾斜事業（急）福住（２）Ⅰ	2022/6/20		埋蔵文化財あり
2022045	高丘古窯跡群	明石市大久保町	ネクスコ西日本高速道路株式会社 関西支社第２神明道路事務所	一般国道２号（第二神明道路） 付加車線事業	2022/6/17		埋蔵文化財なし
2022046	野山古墳	丹波市春日町野山	丹波県民局丹波土木事務所	急傾斜地崩壊対策事業 野山地区	2022/6/29		埋蔵文化財あり
2022047		丹波市春日町山田	丹波県民局丹波土木事務所	通常砂防事業 不動ヶ谷川	2022/6/29		埋蔵文化財なし
2022048		丹波市春日町国領	丹波県民局丹波土木事務所	急傾斜地崩壊対策事業 国領地区	2022/6/29		埋蔵文化財なし
2022049		神戸市東灘区青木	国土交通省近畿地方整備局 兵庫国道事務所	国道23号東灘青木電線共同溝工事	2022/6/27	～ 2022/7/1	埋蔵文化財なし
2022050		丹波市青垣町東芦田	丹波県民局丹波土木事務所	通常砂防事業 下竹の内谷川	2022/7/8		埋蔵文化財なし
2022051	般若寺城跡	丹波篠山市般若寺	丹波県民局丹波土木事務所	急傾斜地崩壊対策事業 般若寺地区	2022/7/8		埋蔵文化財あり
2022054		三木市吉川町桃坂	北播磨県民局加東土木事務所	（主）神戸加東線 桃坂バイパス道路改良事業	2022/7/13		埋蔵文化財なし
2022055		尼崎市武庫之荘	兵庫県警察本部	時友寮解体撤去工事	2022/7/28	～ 2022/8/4	埋蔵文化財なし
2022056		佐用郡佐用町口長谷	西播磨県民局光都土木事務所	急傾斜地崩壊対策工事（塩谷地区）	2022/7/13		埋蔵文化財なし
2022057		佐用郡佐用町口長谷	西播磨県民局光都土木事務所	通常砂防事業 殿谷上川	2022/7/13		埋蔵文化財あり
2022058	鍛冶屋谷製鉄遺跡	佐用郡佐用町早瀬	西播磨県民局光都土木事務所	通常砂防事業 宮ノ谷川	2022/7/13		埋蔵文化財あり
2022059	主計城址	豊岡市但東町赤花	但馬県民局豊岡農林水産振興事務所	県単独緊急防災事業	2022/8/9		埋蔵文化財なし
2022060		宍粟市波賀町野尻	兵庫森林管理署	マンガ谷林業専用道路新設工事	2022/7/12		埋蔵文化財なし
2022061		多可町中区奥中	北播磨県民局加東農林振興事務所	治山事業	2022/7/21		埋蔵文化財なし
2022062		多可町加美区山寄上	北播磨県民局加東農林振興事務所	県単治山事業	2022/7/21		埋蔵文化財なし
2022064		尼崎市園田	兵庫県警察本部	尼崎東警察署園田駅前交番庁舎新築工事	2022/8/5		埋蔵文化財なし
2022068		神崎郡福崎町	ひょうご農林機構県南事務所	野生動物共生林整備	2022/8/5		埋蔵文化財なし
2022070	立脇庵寺	朝来市立脇	ひょうご農林機構県北事務所	里山防災林整備	2022/8/26		埋蔵文化財あり
2022071			ひょうご農林機構県北事務所	緊急防災林整備（溪流対策）	2022/8/26		埋蔵文化財なし
2022072	久田谷遺跡	豊岡市日高町久田谷	ひょうご農林機構県北事務所	里山防災林整備	2022/8/26		埋蔵文化財あり
2022073			ひょうご農林機構県北事務所	緊急防災林整備（溪流対策）	2022/8/26		埋蔵文化財なし
2022074	野塚１～２０号墳	養父市大蔵	但馬県民局養父土木事務所	（砂）下モ山川	2022/9/14		埋蔵文化財なし
2022075		姫路市青山	ひょうご農林機構県南事務所	里山防災林整備	2022/9/13		埋蔵文化財なし
2022078	旧妙仙寺跡	加東市山国	北播磨県民局加東土木事務所	（主）神戸加東線道路改良事業	2022/9/9		埋蔵文化財なし
2022079		養父市吉井	ひょうご農林機構県北事務所	里山防災林整備	2022/9/14		埋蔵文化財あり
2022080		神戸市須磨区大手	国土交通省近畿地方整備局 六甲砂防事務所	大手町地区２工区斜面对策工事	2022/9/12		埋蔵文化財なし
2022081		淡路市石田	淡路県民局洲本土土木事務所	（主）富島久留麻線道路改良事業	2022/9/20		埋蔵文化財なし
2022083	聖心女子学院遺跡	宝塚市塔の町	阪神北県民局宝塚土木事務所	急傾斜地崩壊対策事業	2022/9/30		埋蔵文化財あり
2022084		赤穂郡上郡町休治	西播磨県民局長光都土木事務所	（砂）奥休治川	2022/10/14		埋蔵文化財なし
2022085		赤穂郡上郡町高山	西播磨県民局局長光都土木事務所	（砂）別所原川	2022/10/14		埋蔵文化財なし
2022086		赤穂郡上郡町高山	西播磨県民局局長光都土木事務所	（砂）高山大谷川	2022/10/14		埋蔵文化財なし
2022087		宍粟市千種町千草	西播磨県民局龍野土木事務所 宍粟事業所	国道429号（防災・安全交付金事業）歩道設置工事（その４）	2022/10/28		埋蔵文化財なし
2022088		芦屋市若宮町	国土交通省近畿地方整備局 兵庫国道事務所	国道43号若宮歩道橋エレベーター棟新築他工事	2022/10/6	～ 2022/10/11	埋蔵文化財なし
2022089		美方郡香美町香住区	但馬県民局新温泉土木事務所	通常砂防事業（砂）センダ川（２）	2022/10/31		埋蔵文化財なし
2022090		美方郡香美町村岡区	但馬県民局新温泉土木事務所	急傾斜地崩壊対策事業（急）板仕野	2022/10/31		埋蔵文化財なし
2022098		美方郡新温泉町岸田～田中	但馬県民局新温泉土木事務所	岸田諸寄線道路改良事業	2022/11/16		埋蔵文化財なし
2022099	金屋瓦窯跡	美方郡新温泉町金屋	但馬県民局新温泉土木事務所	（急）金屋（１） 急傾斜地崩壊対策事業	2022/11/16		埋蔵文化財あり
2022100		美方郡香美町村岡区	但馬県民局新温泉土木事務所	（急）高井 急傾斜地崩壊対策事業	2022/11/16		埋蔵文化財あり
2022102		加西市東笠原町	北播磨県民局加東土木事務所	道路改良事業（国）372号加西バイパス	2022/11/22		埋蔵文化財あり
2022103		豊岡市新堂～竹野町坊岡	但馬県民局豊岡土木事務所	（国）178号（竹野道路）道路改築事業	2022/12/13	～ 2023/2/28	埋蔵文化財あり
2022104		尼崎市田能	兵庫県競馬組合	園田競馬場ハッキング馬場整備事業	2022/12/12	～ 2023/1/7	埋蔵文化財なし
2022106		美方郡香美町村岡区	但馬県民局新温泉土木事務所	（急）高井 急傾斜地崩壊対策事業	2022/12/7	～ 2022/12/8	埋蔵文化財あり
2022107		丹波篠山市波賀野	丹波県民局丹波土木事務所	河川事業	2022/12/21		埋蔵文化財あり
2022108		明石市魚住町	北播磨県民局加古川流域土地改良事務所	県営ため池整備事業大道路地区（大道路）	2022/12/7		埋蔵文化財なし
2022109		福崎郡福崎町福田	中播磨県民センター姫路土木事務所	（一）甘地福崎線道路改良工事	2023/1/18		埋蔵文化財なし
2022110		美方郡新温泉町久谷	但馬県民局新温泉土木事務所	久谷桃観線道路災害復旧事業	2022/12/6		埋蔵文化財あり
2022111	荒牧遺跡	伊丹市荒牧	阪神北県民局宝塚土木事務所	（二）天神川堤防強化対策事業	2022/12/15		埋蔵文化財なし
2022112	池の内遺跡	加古川市志方町行常	東播磨県民局加古川土木事務所	通常砂防事業池内川（１）・（２）	2022/12/19		埋蔵文化財あり

2-3 分布調査

遺跡調査番号	遺跡名	所在地	事業者	事業名	調査期間	調査内容
2022115	曾我鍋子谷遺跡	加東市蘇我	近畿農政局東条川二期水利事業所	曾我新池改修	2023/1/10	埋蔵文化財なし
2022116		川辺郡猪名川町上野	阪神北県民局阪神農林振興事務所	県営ため池等整備事業 上野上池地区	2023/2/21	埋蔵文化財なし
2022118	城山刻印群	芦屋市奥山	国土交通省近畿地方整備局六甲砂防事務所	奥山森堰堤	2023/1/27	埋蔵文化財なし
2022119		洲本市大野	淡路県民局洲本土木事務所	(一) 広田洲本線	2023/1/16	埋蔵文化財なし
2022120		淡路市石田	淡路県民局洲本土木事務所	(主) 富島久留麻線道路改良事業	2023/1/18	埋蔵文化財なし
2022123	奥山刻印群	芦屋市奥山	阪神南県民センター西宮土木事務所	道路防災事業	2023/2/2	埋蔵文化財なし
2022125		丹波篠山市東沢田	丹波県民局丹波土木事務所	交通安全事業 (一) 篠山京丹波線	2023/2/21	埋蔵文化財なし
2022126	穴栗市千種町岩野辺	西播磨県民局龍野土木事務所	(砂) 越礼川砂防事業		2023/3/9	埋蔵文化財なし
2022128	南あわじ市港	淡路県民局洲本土木事務所	(主) 福良江井岩屋線道路改良事業		2023/3/16	埋蔵文化財なし
2022129	美方郡新温泉町久谷	但馬県民局新温泉土木事務所	久谷桃観線道路災害復旧事業		2023/3/1	埋蔵文化財なし
2022130		宝塚市波豆	阪神北県民局宝塚土木事務所	(主) 川西三田線 歩道整備事業	2023/3/16	埋蔵文化財なし
2022131		豊岡市戸牧～新堂	国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所	一般国道483号豊岡道路 (Ⅱ期) 工事用道路事業	2023/3/14	埋蔵文化財あり

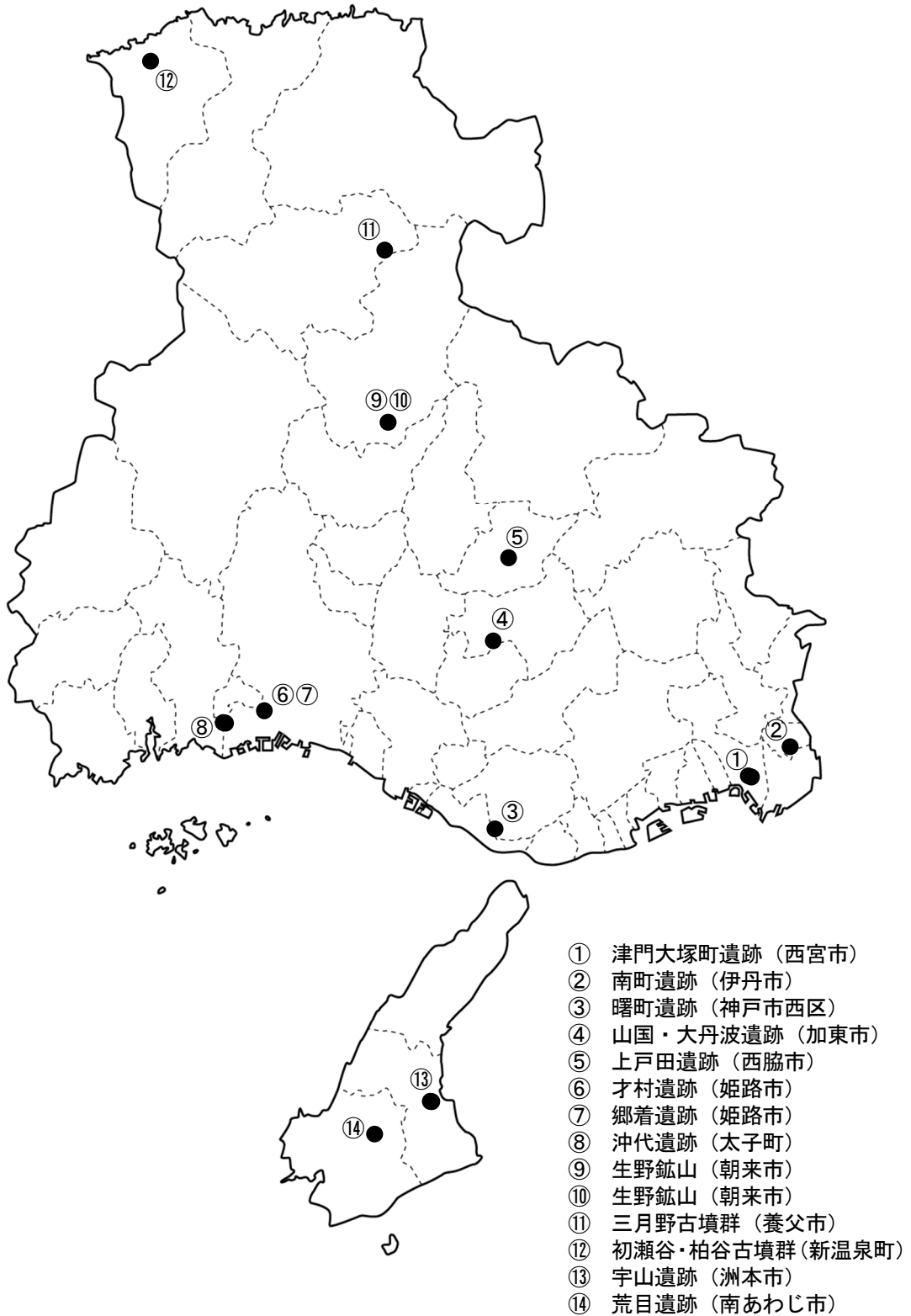
3 確認調査

遺跡調査番号	遺跡名	所在地	事業者	事業名	調査期間	調査内容
2022011	西郷古酒造蔵群	神戸市灘区味泥町	阪神高速道路株式会社	摩耶施設基地建替	2022/4/5	埋蔵文化財なし
2022012	金ヶ崎粘土採取地	明石市大久保町西脇	まちづくり部公営住宅整備課	県営明石大久保南住宅第2期建築工事	2022/7/11	埋蔵文化財なし
2022013	三月野古墳群	養父市大塚	但馬県民局養父土木事務所	本郷谷川砂防	2022/4/18	埋蔵文化財あり
2022029	誓願寺跡	丹波篠山市八上	丹波県民局丹波土木事務所	仙願寺川砂防事業	2022/6/9	埋蔵文化財あり
2022033	西郷古酒造蔵群	神戸市灘区味泥町	阪神高速道路株式会社	摩耶施設基地建替	2022/5/23	埋蔵文化財なし
2022052	門前東1～8号墳	多可町中区門前	ひょうご農林機構県南事務所	緊急防災林整備(溪流対策)整備造成業務	2022/7/25 ～ 2022/7/26	埋蔵文化財あり
2022063	宇都野遺跡	美方郡新温泉町芦屋	神戸地方検察庁	旧浜坂区検察庁解体工事	2022/7/20	埋蔵文化財なし
2022069	長尾谷古墳群	豊岡市上佐野	国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所	一般国道483号豊岡道路	2022/8/29 ～ 2022/8/30	埋蔵文化財なし
2022077	山国・大丹波遺跡	加東市山国	北播磨県民局加東土木事務所	(主) 神戸加東線道路改良事業	2022/9/9	埋蔵文化財なし
2022082	大新屋遺跡	丹波市柏原町大新屋	丹波県民局丹波土木事務所	(一) 竹安川河川改修事業	2022/10/11	埋蔵文化財なし
2022091	史跡大中遺跡	加古郡播磨町大中	兵庫県立考古博物館	史跡大中遺跡確認調査	2022/10/19	現状保存
2022095	段の城橋居跡・門	多可郡多可町中区門前	ひょうご農林機構県南事務所	緊急防災林整備(溪流対策)	2022/12/5	埋蔵文化財なし
2022096	上戸田遺跡	西脇市上戸田	国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所	一般国道175号西脇北バイパス事業	2022/10/20	埋蔵文化財なし
2022105	姫路城城下町	姫路市河間町	中播磨県民センター姫路土木事務所	都市計画街路事業(城東線)	2022/12/5	埋蔵文化財なし
2022113	柏原旧城下町	丹波市柏原町柏原	大阪高等裁判所	神戸地家裁柏原支部新営等建築工事	2022/12/20	埋蔵文化財なし
2022124	前田遺跡	姫路市網干区高田	中播磨県民センター姫路土木事務所	(一) 網干停車場新舞子線道路改良事業	2023/2/9	埋蔵文化財あり
2022127	鍛冶屋谷製鉄遺跡	佐用郡佐用町早瀬	西播磨県民局龍野土木事務所	通常砂防事業 宮ノ谷川	2023/3/3	埋蔵文化財なし
2022132	小赤松遺跡	佐用郡佐用町小赤松	ひょうご農林機構県南事務所	野生動物共生林整備	2023/3/22	破壊状況確認、埋蔵文化財なし

4 工事立会

遺跡調査番号	遺跡名	所在地	事業者	事業名	調査期間	調査内容
2022028	伽耶院西遺跡	三木市志染町大谷	兵庫県企業庁北播磨・臨海建設事務所	農道志染1012号線舗装復旧工事	2022/5/18	埋蔵文化財なし
2022034	曙町遺跡	神戸市西区曙町	兵庫県まちづくり部公営住宅整備課	県営玉津鉄筋1・2号棟解体工事	2022/5/25	埋蔵文化財なし
2022076	下ノ山4号墳	加東市	北播磨県民局加東土木事務所	播磨中央公園リニューアル事業	2022/9/7	埋蔵文化財なし
2022092	尾上構居跡	加古川市尾上町	兵庫県警察本部総務部	尾上公舎解体撤去工事	2022/10/20	埋蔵文化財なし
2022093	鎌足神社周辺地区散布地	多可町加美区大袋	ひょうご農林機構県南事務所	緊急防災林整備(溪流対策)	2022/10/24	埋蔵文化財なし
2022094	北中遺跡	丹波市柏原町北中	丹波県民局丹波土木事務所	急傾斜地崩壊対策事業 北中Ⅰ地区	2022/10/24 ～ 2022/10/26	埋蔵文化財あり
2022097	南町遺跡	伊丹市南町	兵庫県住宅供給公社	伊丹南町団地建替事業(第2期)	2022/11/2	埋蔵文化財あり
2022101	神呪寺	西宮市甲山町	阪神南県民センター西宮土木事務所	公園事業リニューアル事業	2022/11/21 ～ 2022/11/28	埋蔵文化財なし
2022114	田能高田遺跡	尼崎市田能	兵庫県競馬組合	園田競馬場装鞍所改修工事	2023/1/16 ～ 2023/2/16	埋蔵文化財あり
2022117	久田谷遺跡	豊岡市日高町久田谷	ひょうご農林機構県北事務所	里山防災林整備	2023/1/13	埋蔵文化財なし
2022121	曙町遺跡	神戸市西区曙町	兵庫県まちづくり部公営住宅整備課	県営玉津鉄筋住宅3・4号棟解体除却工事	2023/1/31	埋蔵文化財なし
2022122	福本遺跡	朝来市立脇	ひょうご農林機構県北事務所	里山防災林整備	2023/1/31	埋蔵文化財なし

第2章 発掘調査事業の概要



令和4年度発掘調査遺跡の位置

1 津門大塚町遺跡

所在地 西宮市津門大塚町

事業者名 兵庫県病院局

事業名 兵庫県立西宮総合医療センター（仮称）
整備

担当者 園原悠斗・稲本悠一・鈴木郁哉・
池田 旭・青山 航・三好元樹

種別 本発掘調査

期間 令和4年7月13日～令和5年2月10日

面積 6,513 m²



遺跡の位置（「西宮」）

1 調査に至る経過

兵庫県病院局による兵庫県立西宮総合医療センター（仮称）整備に伴い、本発掘調査を実施した。当該事業地は、津門大塚町遺跡として周知されており、これまでに西宮市教育委員会文化財課（現在、西宮市文化財課）によって5次にわたり発掘調査が実施されている。平成25・26年度に、西宮市によって旧アサヒビール西宮工場解体に伴う立会調査を実施した結果、当該事業地内において埋蔵文化財が遺存していることが明らかとなった。

そこで、上述の立会調査の結果をもとに、調査区を3つ（1～3区）に分けて実施した。

2 調査の概要

【第1面（平安～鎌倉時代）】

現地表から1.4～1.8m下で中世の遺構と遺物を検出し、遺構検出面とした。遺構は、南側の1区で南北に延びる道路状遺構と、それに沿って建てられた11棟以上の掘立柱建物、10基の井戸を検出した。中央の2区では溝、土坑、ピットを、北側の3区では、掘立柱建物2棟、旧河道、溝、井戸、土坑、ピットを検出した。

1区 道路状遺構は調査区の中央付近で検出した。わずかに東にふるが、およそ南北方向を指向する2条の溝を確認し、これが道路側溝の可能性があり、溝と溝の間に固く叩き締められた土が確認できたことから、道路状遺構と判断した。道路状遺構は検出長33.5m、幅は約15～16mである。

掘立柱建物は、合計11棟を検出した。規模は様々であるが、主軸はほぼ同じく、南北方向を指向するものが多い。掘立柱建物の多くは、道路状遺構の東西両側にて検出した。これらの建物と道路状遺構の主軸方向は同一であり、同時期のものであった可能性が高い。なお、復元しえた11棟以外にも多数の柱穴を検出しており、実際の建物数は、さらに多かったものと推定される。

井戸10基のうち9基には、曲物等を利用した井戸枠が良



1区第1面道路状遺構（北から）

好に残っていた。出土遺物から、多くが中世のものと考えられる。

2区・3区 遺構検出面は厚さ0.3～0.4mの洪水砂層に覆われており、洪水砂層からは主に鎌倉時代後期よりも古い時期の遺物が出土している。

遺構は土坑、ピットのほか、鋤溝状の浅い溝が多く、主に農地としての利用が想定できる。3区西側では掘立柱建物2棟と井戸、南北に流れる旧河道を検出した。遺構埋土および包含層からは、須恵器、土師器、瓦器、輸入青磁、宋銭が出土している。

【第2面（古墳時代～奈良時代）】

第1面から0.2～0.3m下で古墳時代の遺構と遺物を検出し、遺構検出面とした。南側の1区で主に居住域と墓域を、1区から北側の2・3区では、墓域を確認した。

1区 遺構は竪穴建物38棟、大壁建物1棟、円墳1基、方墳2基、溝、土坑、ピットを検出した。

竪穴建物は、多くが一辺4m前後の方形で、切り合いが激しく、遺存状態が悪いものが多い。カマドは38棟のうち2棟で確認した。竪穴建物からは、古墳時代中期前半～古墳時代後期末頃までの遺物が出土している。なかでも、古墳時代後期後半の須恵器と土師器が多く、それらに伴出して、鉄塊、鉄滓、フイゴの羽口、砥石など、鉄鍛冶関連の遺物が多数出土している。ただし、竪穴建物の床面で被熱した痕跡や鍛冶炉状遺構は検出されなかった。

大壁建物1棟は、約3m×3.5mの規模で、溝内の柱穴は比較的まばらである。溝埋土からは古墳時代中期～後期の須恵器が出土しており、建物の廃絶時期は当該期と推測できる。

古墳は、墳丘規模不明の9号墳と、墳丘規模が一辺約10mの10号墳を検出した。9号墳の周濠からは遺物の出土がなく、時期は不明である。埋葬施設も検出されなかった。10号墳の周濠からは土師器、須恵器、陶質土器などの多量の土器や、鉄滓、鉄器が出土している。陶質土器のうち1点は、栄山江流域に多く出土する特徴をもった甕である。他にも、伽耶系の陶質土器（把手付碗）も出土している。10号墳周濠から出土した土器の多くは中期前半の特徴をもっており、古墳の埋葬時期は当該期と推定できる。

なお、調査区西側の竪穴建物の下層に遺構が存在することが判明したため、第2面調査終了後に下層掘削を行った。その結果、円墳1基（11号墳）、溝、土坑、ピットを検出した。11号墳は復元径が約11mで、周濠から後期前半の須恵器、土師器が出土しているほか、馬と推測できる動物骨も出土している。

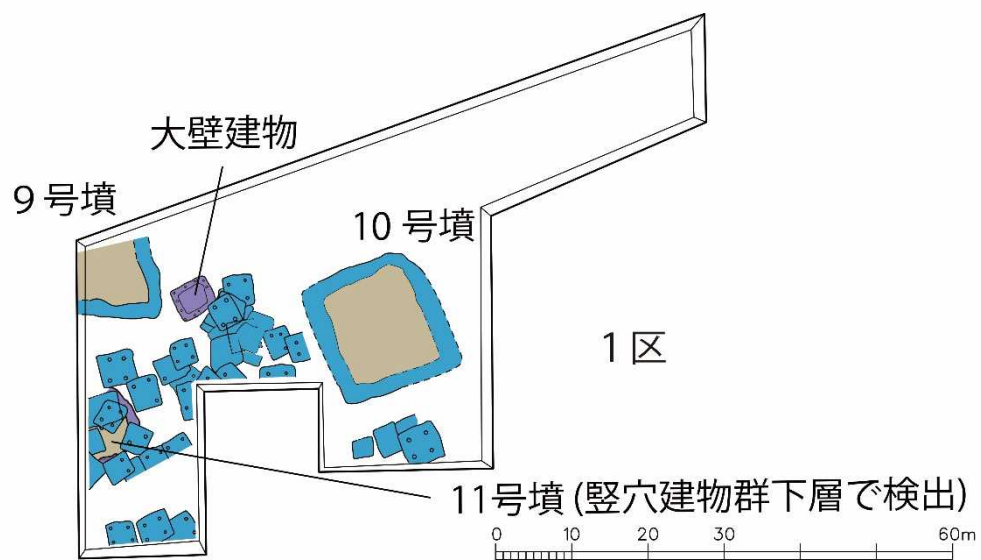
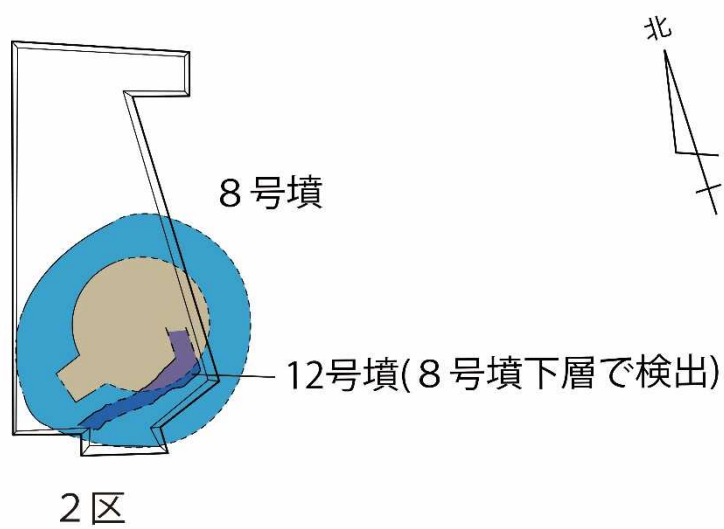
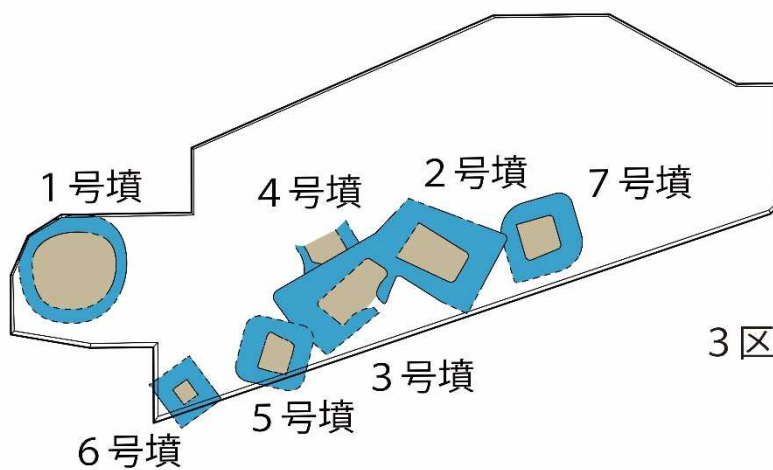
2区・3区 遺構は、円墳2基（1号墳・8号墳）、方墳7基（2～7号墳・12号墳）、掘立柱建物3棟、溝、土坑、ピットを検出した。古墳はいずれも削平されており、墳丘や埋葬施設は遺存していなかった。



1区第2面 古墳と竪穴建物群（東から）



1区第2面 大壁建物（南から）



第2面遺構配置図

1号墳の墳丘規模は径約11m、2～7号墳は一辺4～10mであり、それぞれ幅1～3m程度の周濠をもつ。1号墳の周濠埋土からは遺物の出土が無かったが、1号墳周辺の包含層から弥生時代中期～古墳時代前期頃の土器が出土しており、1号墳の築造時期はそれらに近い時期である可能性が想定できる。

2～7号墳の周濠埋土からは、古墳によって量に違いがあるものの、古墳時代後期の埴輪片が出土しており。特に3号墳北側から5号墳北西側にかけて集中している。また、3号墳の周濠からは馬歯が、5号墳の周濠からは馬歯と牛歯が出土している。5号墳周濠の南西部では、周濠の底面に破砕した須恵器甕の破片が敷かれており、馬歯はその須恵器敷の上で出土している。周濠で馬を用いた祭祀が行われていた可能性が考えられる。

8号墳の大部分は攪乱により失われているが、復元した墳丘長はおよそ24mになり、周濠までを含めるとおよそ30mの規模となる。周濠埋土からは、古墳時代後期の埴輪と須恵器が多数出土した。埴輪は円筒のほか、形象埴輪として、家形・鶏形・馬形・人物形・石見型盾形などが見られる。3区で出土した埴輪はほぼすべてが円筒埴輪であるのと対照的に、8号墳の周濠から出土した埴輪は形象埴輪が多い。

なお、8号墳南側周濠を完掘後、その下層より溝状遺構を検出した。この溝は北東方向へと続いていることが判明した。よって第2面調査終了後に調査区の南東側一部の拡張と下層掘削を行った。その結果、方墳の一部と考えられる屈曲する溝1条を検出した（12号墳：SD76）。12号墳からは多量の埴輪・土師器・須恵器と、種実が出土した。時期は古墳時代後期前半と考えられる。12号墳築造後、何かしらの要因によって破壊され、あらたに8号墳が築造されたと推測される。

3 まとめ

津門大塚町遺跡は、武庫川と津門川の間の沖積地に位置している。当遺跡では、大きく2時期の様相が明らかとなった。

中世の遺構面（第1面）では、南側の1区で南北に延びる道路状遺構と、それに沿って建てられた11棟以上の掘立柱建物、10基もの井戸を検出した。また、3区で検出した南北方向の旧河道からは、宋銭や輸入陶磁器、動物骨などが見つかり、陸路（道路状遺構）と平行して北へと上る水路としての利用が想定できる。よって中世の津門大塚町遺跡は、南北に通る道路状遺構を中心に展開された集落の様相が明らかとなったと言える。

古墳時代の遺構面（第2面）では、南側の1区で主に居住域と墓域を、1区から北側の2・3区では、墓域を確認した。以下、建物と古墳群に分けて、それぞれ概要を整理する。

竪穴建物で最も古い時期は古墳時代中期前葉（5世紀前葉）、最も新しい時期は古墳時代後期後半（6



3区第2面 5号墳周濠
須恵器敷と馬歯（東から）



2区第2面 8号墳全景（南西から）

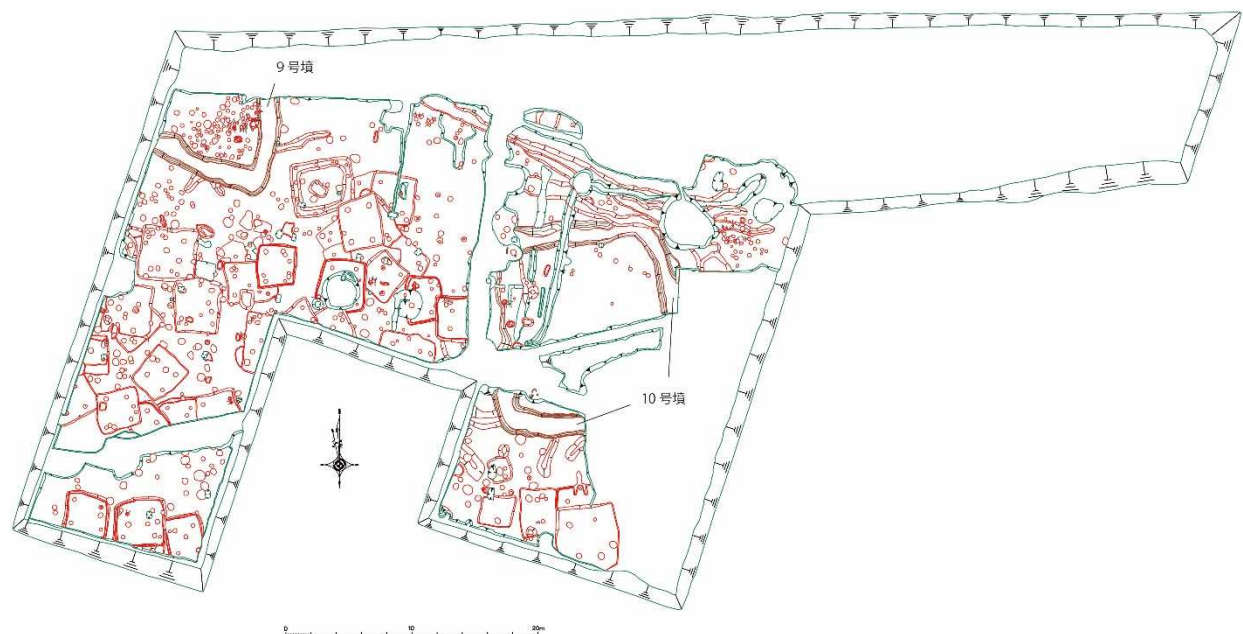
世紀後葉)である。出土遺物は須恵器や土師器のほか、大形の椀形滓を含む鉄滓や素材となる鉄塊、ふいごの羽口、砥石などが見つかった。素材鉄や大形の椀形滓の存在などから、最終的な鉄器の加工・調整だけでなく、炭素分を多い鉄塊を精錬して、炭素分の少ない鉄素材を生産する工程も行われていた可能性が高い。

一方の古墳群は、円墳3基と方墳9基を検出した。いずれも古墳の周濠から古代以降の遺物はほとんど出土しておらず、古代以前に墳丘が削平され、周濠が埋められたものと推測できる。

9基の方墳のうち、古墳時代中期前葉に比定できる10号墳では、多量の須恵器、土師器に伴って陶質土器の甕と把手付椀が出土している。甕は栄山江流域、把手付椀は伽耶地域に生産地を推定でき、異なる地域からの搬入である。10号墳の被葬者は朝鮮半島の複数の地域と関係をもっていたと考えられる。また、後期後葉に比定できる3号墳や5号墳では、周濠から牛馬の歯骨が出土しており、当地域に牛馬の文化が受容されていたと言えよう。

一方、3基の円墳のうち、造り出し付円墳である8号墳は、古墳時代後期後葉に比定でき、多量の埴輪が出土している。当古墳群のなかでは、最も規模が大きいことに加え、方墳ではほとんど見られなかった形象埴輪が多数出土していることから、性格の異なる被葬者が想定できる。

古墳時代の津門大塚町遺跡は、古墳時代中期前葉～後期後葉にかけて一時的な断絶を挟みながらも長期間にわたって古墳が築造されていたことが明らかとなった。鍛冶関連遺物が多く出土することから、大規模鉄器生産に従事する集団の集落であると推測でき、この集落の長が古墳群の被葬者であるとも考えられる。これらのことから、今回の調査では朝鮮半島とのネットワークをもつ、大規模鉄器生産集団の集落と、その墓域が明らかとなったと言えよう。

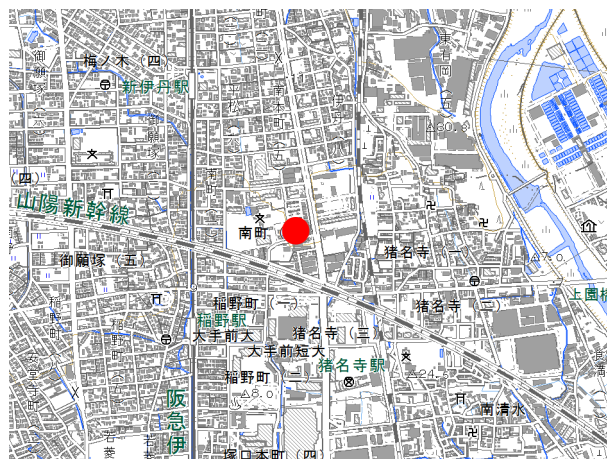


1区第2面 遺構位置図

2 南町遺跡

遺跡調査番号 2022065

所在地 伊丹市南町2丁目
 事業者名 兵庫県住宅供給公社
 事業名 伊丹南町団地建替事業（第2期）
 担当者 鈴木康高
 種別 本発掘調査
 期間 令和4年8月8日～9月9日
 面積 549 m²



遺跡の位置（「伊丹」）

1 調査に至る経過

兵庫県住宅供給公社では、伊丹市南町2丁目において伊丹南町団地建替事業（第2期）を計画した。当該事業用地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である南町遺跡の範囲に含まれている。令和2年度に実施された詳細分布調査の結果、埋蔵文化財が存在していることが明らかとなったことから本発掘調査を実施した。

2 調査の概要

調査区は1～3区の3か所に分かれる。地表下約1.2mで地山を検出し、この上面を遺構検出面として調査を行った。

1区 溝・土坑・ピットを検出した。東半部の遺構密度は薄い。

2区 溝・土坑・ピット・埋納遺構を検出した。西半部の遺構密度が高い。およそ1～2m程度の土坑が多く認められる。埋納遺構（SX76）は調査区北東部で検出した。平面形は円形で、中央部に須恵器壺が正位で置かれていた。

3区 溝調査区東半において平行する溝5条を検出した。出土遺物がなく時期は不明で、耕作溝と考えられる。

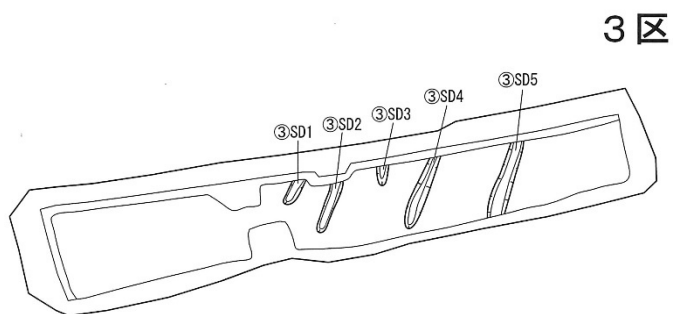
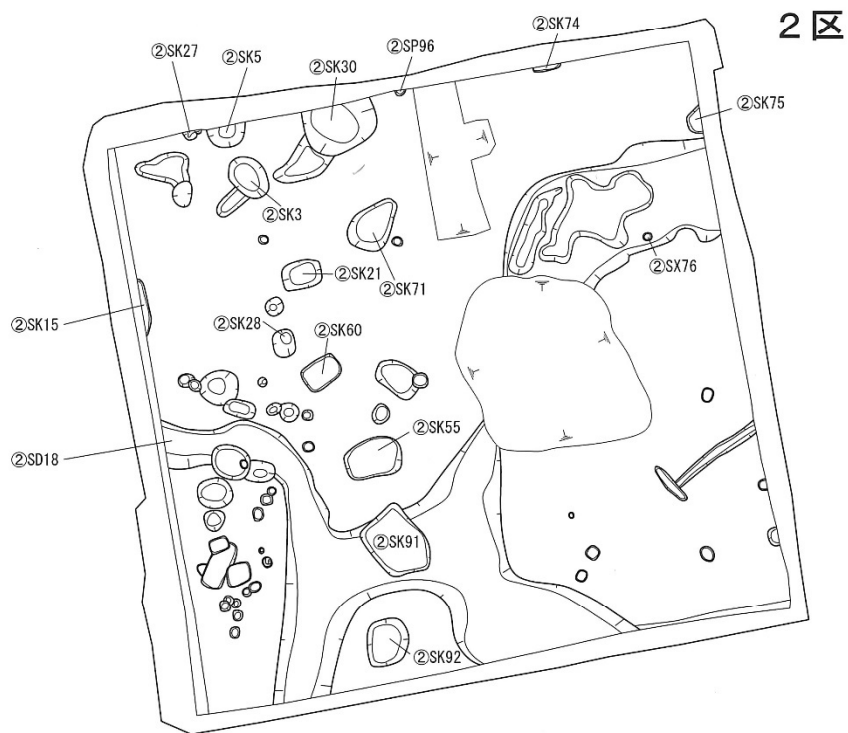
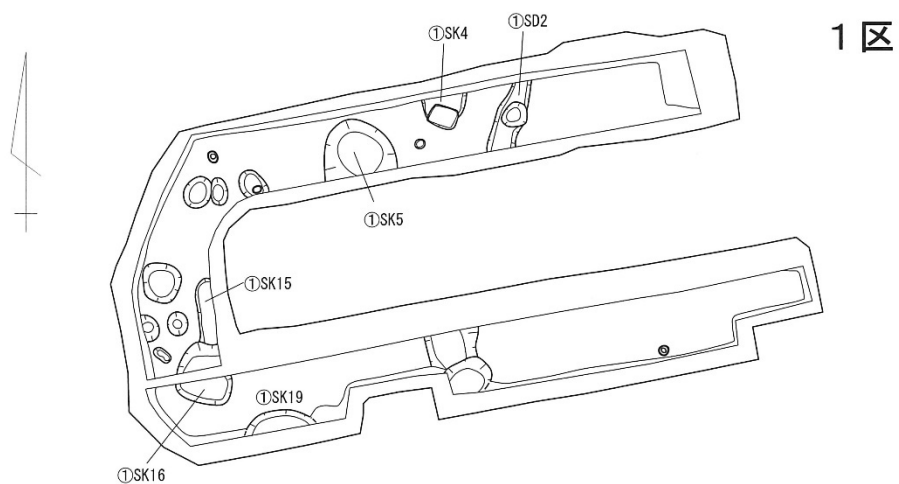


埋納遺構（SX76）

3 まとめ

今回の調査は南町遺跡東半にあたり、土坑や埋納遺構などが検出された。土坑の多くは遺構埋土から遺物の出土がないため時期の判断が難しい。西側隣接地の調査では古墳時代中期末前後の土取り穴群が検出されていることから、今回検出した土坑も同時期の土取り穴と捉えうる。また、顕著な遺構として埋納遺構（SX76）を検出した。その性格は不詳ながら土地利用があったことが示される。

周辺には特に古墳時代から古代にかけての遺跡が比較的密に分布しており、本調査でも同時期の遺構が広がり、その土地利用の一端を把握することができた。



平面图

3 曙町遺跡

所在地 神戸市西区曙町

事業者名 兵庫県福祉部

事業名 ひょうご障害者総合トレーニングセンター（仮称）事業

担当者 上田健太郎・鈴木郁哉・乗本愛実

種別 本発掘調査

期間 令和4年4月20日～6月22日

面積 503 m²



遺跡の位置（「東二見」・「明石」）

1 調査に至る経過

兵庫県福祉部は神戸市西区曙町において、ひょうご障害者総合トレーニングセンター（仮称）事業を計画している。事業地周辺は曙町遺跡として周知されている。県教育委員会の平成8・9年度確認調査（遺跡調査番号：960308・970204）の結果から、まず令和3年度に本発掘調査（遺跡調査番号：2021001）を実施した。その際、過去に特別養護老人ホーム万寿の家の建物の基礎により遺構面が既に損壊されているとの認識で本発掘調査対象範囲から除外されたが、本発掘調査で新たに発見された下層遺構面のレベルと残存範囲から、本発掘調査対象外となった箇所の建物基礎掘削以下にも下層遺構面が存在する可能性が濃厚となった。そこで令和4年度に当該範囲の本発掘調査を実施した。

2 調査の概要

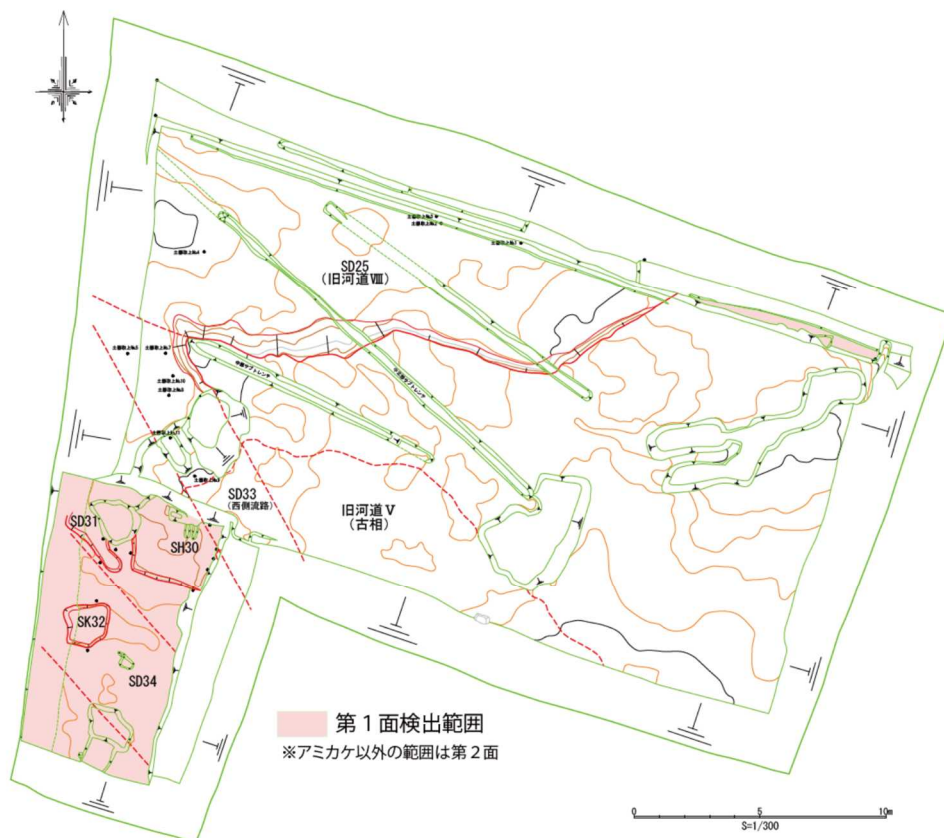
曙町遺跡は、明石川右岸の沖積平野部で印南野台地東縁部の裾に位置する。特に、調査地の西側では王塚古墳の立地する台地の裾となる段丘崖と近接している。令和3年度のA-1区とA-2区の間にならに設定したC区を対象に本発掘調査を行い、2時期の遺構面を確認した。

第1面 古墳時代中期後半以降の遺構面である。調査区南西部（A-2区西側隣接箇所）のほか、調査区北東部（A-1区南側隣接箇所）でも狭小な範囲で検出された。遺構検出面のレベルは南西部で標高約10.6m、北東部で標高約10.3mを測る。ただし北東部に関しては、A-1区でのレベルが標高約10.6mであることから、万寿の家の基礎により深さ30cm程度が損なわれていると考えられる。

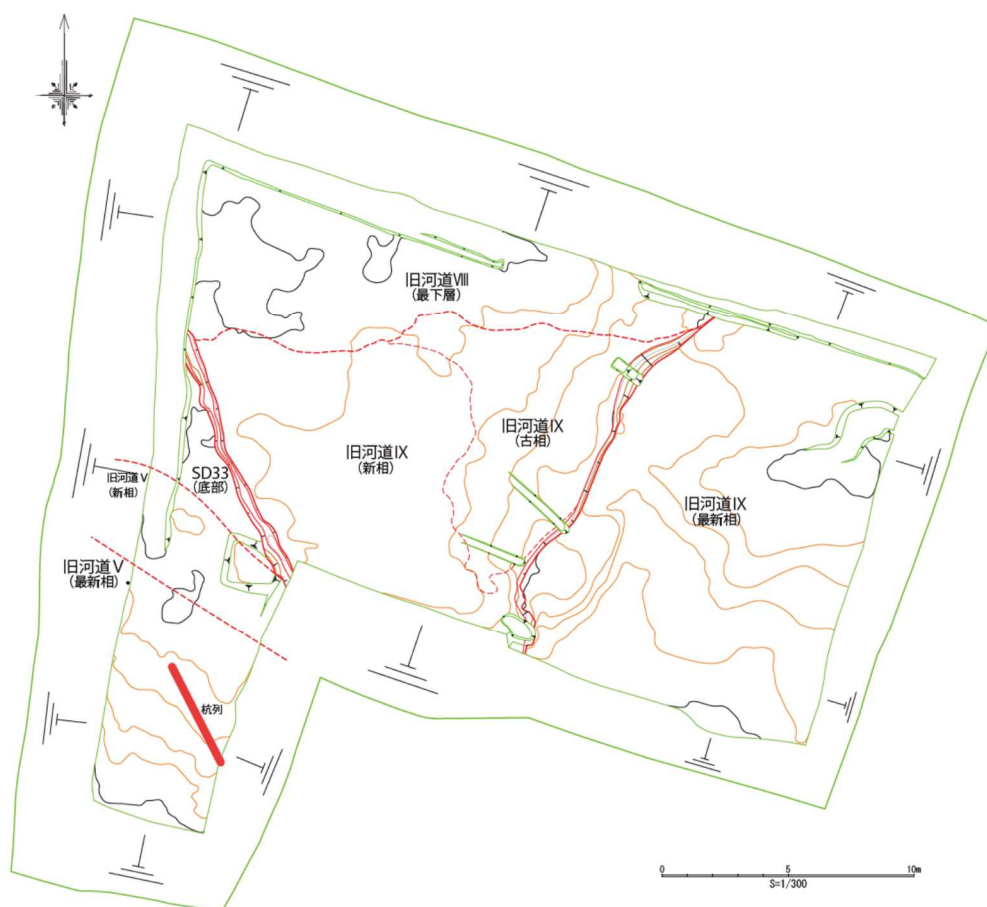
調査区南西部では、旧河道Vとその埋没後に上部から掘り込まれた竪穴建物跡1棟、溝2条、土坑1基を検出した。溝SD34は旧河道Vの埋没後半段階に既に開削され、開削当初の幅は3.84m、検出面からの深さは1.40mであったが、第1面の他の遺構が営まれる頃には深さ50cm程度まで埋没している。竪穴建物跡SH30の北側は万寿の家の建物基礎により破壊され、東側は調査区外に及ぶ。平面方形で、床面の検出範囲東端で柱穴1本を確認した。SD34を除く遺構の埋土からは土師器や須恵器の小片が出土しており詳細な時期は不明であるが、周辺の状況から古墳時代中期後半から後期の所産と考えられる。

調査区北東部の検出面では、遺構は認められなかった。

第2面 弥生時代後期から古墳時代前期の遺構面である。万寿の家の建物基礎を除去した直下が遺構検出面となり、レベルは標高約9.8m付近である。水路SD25及び排水路SD33、旧河道2本を検出した。



第1面遺構平面図 (S=1/300)



第2面遺構平面図 (S=1/300)

SD25・旧河道Ⅷ SD25は調査区北西部を西流する。北肩はA-1区に及ぶが未検出であり、C区における検出最大幅は8.72mを測る。検出面からの深さは0.84mを測る。埋土は古墳時代前期の土器を含む上半部層と弥生時代後期の土器を含む下半部層に分かれる。上半部層で検出した古墳時代前期の土器群は概ね調査区北壁周辺のみ集中している。なお、A-2区での古墳時代前期土器の出土レベルは標高10.2m付近であるが、C区では9.8m付近まで万寿の家の建物基礎により破壊されており、標高9.6～9.8m付近に集中する。下半部層からは弥生時代後期の土器が出土したが、出土量は極めて少量である。

SD25は旧河道Ⅷに包括され、その最終段階としての流路に位置づけられる。深掘り区において検出した旧河道Ⅷの底部は標高8.0mであり、検出面からの深さは1.80mとなる。なお、標高8.3m付近でやや傾斜して打設された杭1本を確認した。底部付近の砂層中から破断面の摩耗した弥生時代後期前葉から中葉頃の甕口頸部分の破片が出土したことから、同河川の開削が弥生時代後期であると考えられる。

SD33 旧河道Ⅴ新相に上部を切られる。平面での検出は下半部層の一部にとどまり、南壁断面や南西突出部東壁断面で立ち上がりを観察できた。平面での残存幅は2.8mに復元でき、確認できた延長は12.9mに及ぶ。溝底は南東から北西方向に傾斜し、SD25に向かって流れることから排水路と考えられる。下半部層から弥生時代後期前葉から中葉にかけての土器がまとまって出土した。いずれも器種の形状が保たれており破断面は摩耗が比較的認められず原位置に残置された可能性が考えられる。

旧河道Ⅷ 南西突出部を除くC区の大部分に広がり、旧河道Ⅴ（最古相～新相）、旧河道Ⅷ、SD33に切られる。いずれも流れの方向は不明である。最古相・古相・新相・最新相の4段階の変遷が認められ、最新相はC区東半部一体を覆い、弥生時代前期・中期の摩滅した土器を含む。新相は旧河道Ⅷに切られ、弥生時代中期の摩滅した破片が出土している。古相はC区北東部一帯に広がり、弥生時代中期後葉の甕の破片が出土している。最古相はC区東半部において概ね最新相の下位に存在するが、今回の調査では掘削が及ばなかったために流れの方向や帰属時期は不明である。

3 まとめ

第1面では昨年度確認された古墳時代中期末の遺構面に対応すると考えられる遺構面が、今年度調査区の北東部及び南西部で昨年度調査区に隣接して確認された。すぐ西側の確認調査区では遺構が確認されていないため、曙町遺跡の古墳時代後半期の集落の西限をおさえることができたといえる。

旧河道Ⅴから古墳時代中期の須恵器、土師器のほか製塩土器も出土している。明石川流域では古墳時代中期に他地域と比べて製塩土器の出土が集中しており、堅穴建物や水路において出土する傾向と祭祀行為とも関連する可能性が指摘されている。

第2面では、昨年度確認された古墳時代前期の土器を含む水路SD25の続きやSD25を包括する旧河道Ⅷと、SD25に取り付け排水路SD33を検出した。旧河道Ⅷが弥生時代後期前葉から中葉に開削され、1.25m程度埋積した後に水路SD25として利用され排水路SD33が設けられる。SD33下半部から出土した土器群が弥生時代後期前葉から中葉にかけてのものであることから、旧河道Ⅷ開削後からさほど時間を経ずして河底が浅くなった段階で取水及び排水を行ったと考えられる。

SD25及びSD33、旧河道Ⅷから出土した土器は、器面や破断面にほとんど摩耗が認められないことから西側の段丘上など近隣に弥生時代後期から古墳時代中期にかけて集落が存在したことが示唆され、SD34の時期に至るまで付近に広がる水田域に取水・排水を行っていた蓋然性が考えられる。

やまくに おおたんば

4 山国・大丹波遺跡

遺跡調査番号 2022053

所在地 加東市山国
事業者名 兵庫県北播磨県民局加東土木事務所
事業名 (主) 神戸加東線道路改良事業
担当者 鐵 英記
種別 本発掘調査
期間 令和4年9月12日～9月22日
面積 300 m²



遺跡の位置（「社」）

1 調査に至る経過

兵庫県北播磨県民局加東土木事務所では、加東市山国地内において県道神戸加東線の改良工事を計画している。当該事業用地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である山国・大丹波遺跡を含む。令和4年度の事業範囲については、令和3年度の確認調査（遺跡調査番号：2021049）により、埋蔵文化財の存在を確認しており、本発掘調査を実施した。

2 調査の概要

事業予定地は、南北を河川に区切られた段丘に位置し、今回の調査範囲はその頂部の平坦面にあたる。

基本層序は耕土・床土直下に灰色粘質シルトの遺物包含層が認められ、地山と考えられるにぶい黄橙色～灰白色の粘土～粘質シルト上面で遺構を検出した。遺構埋土は概ね包含層と同質の灰色粘質シルトであった。

検出した遺構は溝、土坑、ピットであり、遺構ではないが新しい時期の溜井も検出された。以下、検出された遺構につて、種類ごとに略述する。

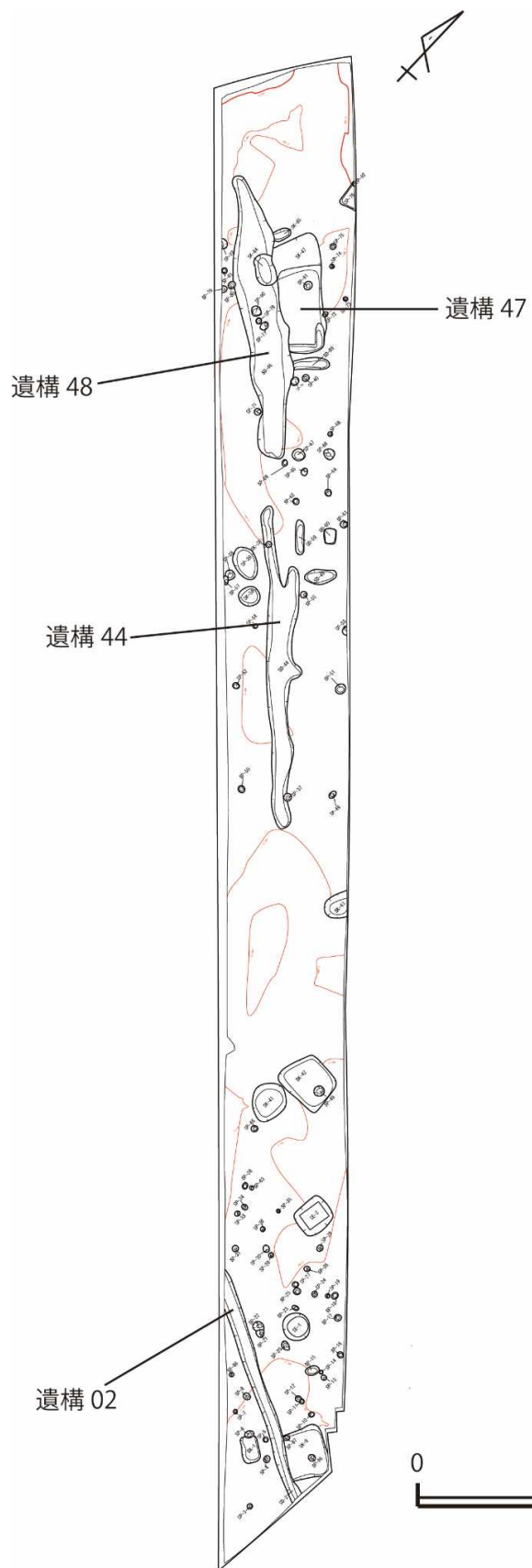
溝は調査区南端の遺構 02、北半の遺構 44・48 である。02 は幅 10 cm で直線的に伸びる。遺構 44・48 は本来一連のものと考えられる。最大幅 1.5m を測り、遺構 44 の方が浅く、遺構 48 に向かって深くなることから、南から北に流れていたものと思われる。遺構 48 からは律令期の土器が多く出土している。

土坑は平面楕円形のものが調査区内に散在して検出されている。遺物を伴うものも少ない。ただ、遺構 48 に切られている遺構 47 は方形を呈する大型のもので、深さは 10 cm 程度と極めて浅いものの、主柱穴や壁溝ではないかと思われる落ち込みを伴うことから、方形住居の痕跡である可能性もある。古墳時代後期～古代の須恵器が出土している。

ピットは 50 基程度検出した。概ね直径 30 cm 程度で平面形は円形のものが主体である。調査区南端に多いものの、列・建物としては認識できなかった。

3 まとめ

今回の調査地点は丘陵頂部にあたり、山国・大丹波遺跡では集落の中心に近い部分と考えられるが、検出された遺構は浅く残りが悪いものが多い。耕作地や宅地を造成する過程で削平を受けていると考えられる。残された遺構からは主に律令期の土器が出土しており、山国・大丹波遺跡が営まれた時期は古代を中心としたものと考えられる。



平面図



全景（北西から）

所在地 西脇市上戸田

兵庫国道事務所

担 当 者 青 山 航・三好元樹・鈴木郁哉

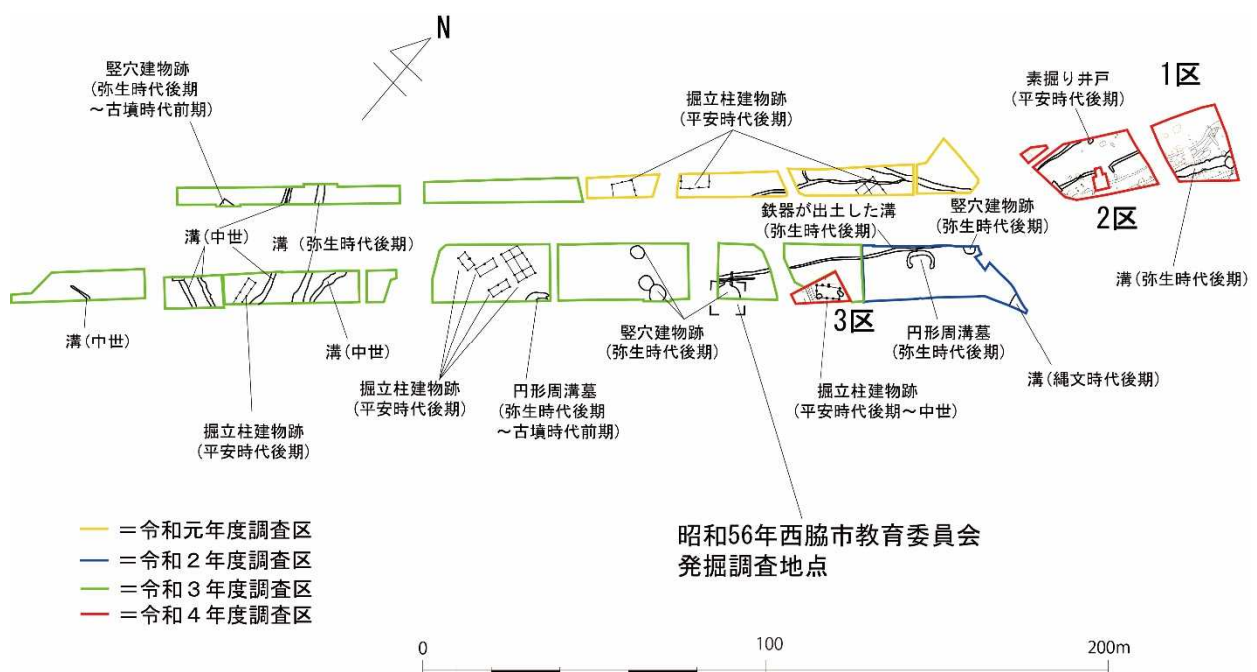
期 間 令和4年6月20日～8月9日

面積 918 m^2



遺跡の位置（「西脇」）

国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所による一般国道 175 号西脇北バイパス事業に伴い、発掘調査を実施した。これまで同事業に関連した発掘調査は、上戸田遺跡の範囲内においては平成 30 年度から令和 3 年度にかけて 4 次にわたり実施されている。今回の調査は、現道の関係から調査区を 3 つに分けて実施した。



これまでの発掘調査区と主要遺構

【1区】

遺構は、溝、土坑、ピットを検出した。

溝 (SD4-210) は幅約 2m、深さ約 0.6m で南北方向に走る。埋土からは弥生時代後期の甕、壺、高杯が多く出土している。

その他の溝、土坑、ピットからは平安時代後期と考えられる須恵器、土師器などが出土している。そのため溝 (SD4-210) を除く遺構のほとんどが平安時代後期の遺構と考えられる。

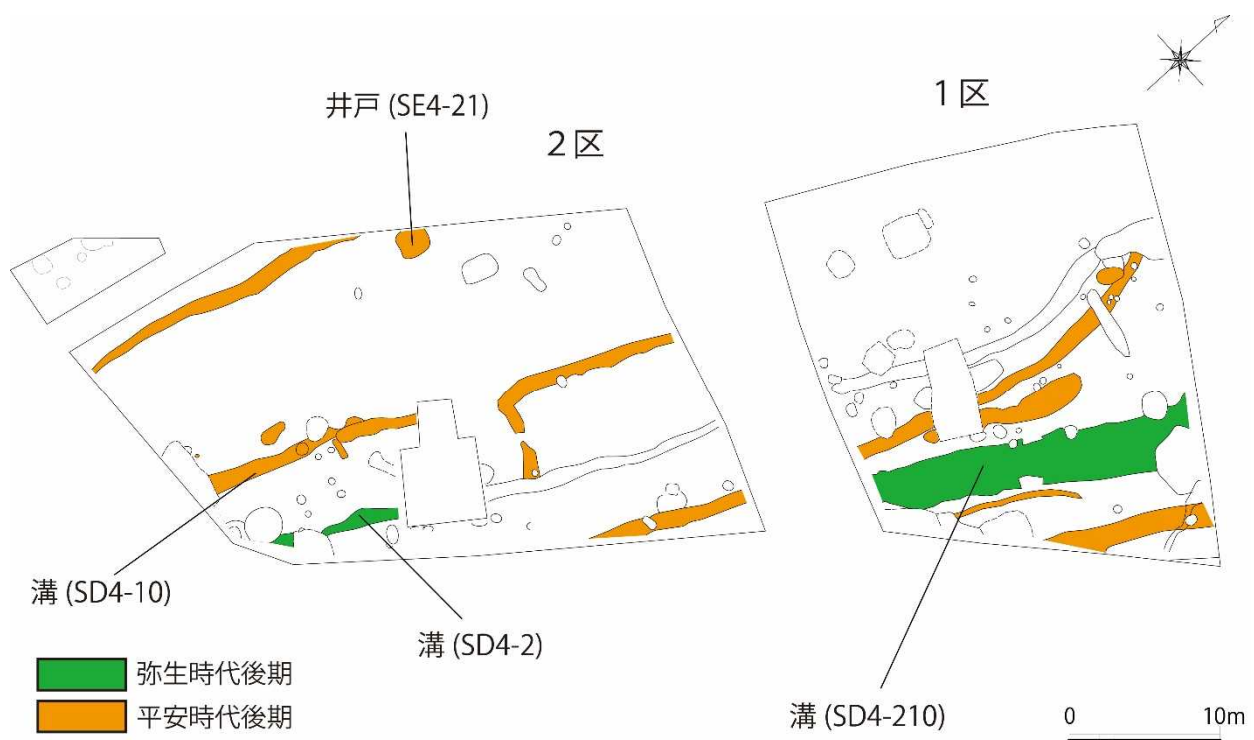
【2区】

1区と幅約 2m の集落道路を挟んだ南側に位置する。遺構は、溝、土坑、井戸、ピットを検出した。

溝 (SD4-2) からは弥生時代後期～古墳時代初頭の甕などが出土している。また、溝 (SD4-10) からは平安時代後期の須恵器の碗、甕が出土している。

その他の大半の遺構からも平安時代後期と考えられる遺物が出土している。そのため、1区と同様に遺構の大半が平安時代後期のものと考えられる。令和元年度に発掘調査を実施した南側の調査区においても同時期の遺構が多く検出されており、その結果と差異のない調査結果となった。

井戸 (SE4-21) は直径 1.7m、深さ 2.0m の素掘りの井戸である。平面形は円形で、壁はおおむね垂直で、底部付近でU字型となる。埋土中から古代の須恵器の碗などが出土した。



1区、2区遺構配置図

【3区】

令和3年度発掘調査区1区 (遺跡調査番号: 2021006) のうち、コンクリート基礎ブロックがあったため調査を実施出来なかった 88 m²を対象に発掘調査を実施した。

遺構は掘立柱建物跡（4×2 間 1 棟）、土坑、溝、ピットを検出した。

掘立柱建物跡はピットの直径が約 30cm の円形である点、ピットの 1 つから須恵器がわずかに出土している点から、古代末～中世の掘立柱建物跡と考えられる。

その他の遺構から遺物は出土していないため、時期は不明である。

3 まとめ

以上、調査の成果を箇条書きにまとめる。

- ・弥生時代後期の溝を 1、2 区で検出した。前年度以前の南側の発掘調査では当該時期に近い時期の竪穴建物跡を検出しており、当該時期の集落の範囲が広がる可能性を指摘できる。
- ・古代の遺構は 1、2、3 区のすべての調査区で確認した。3 区では、掘立柱建物跡を検出した。建物跡は 3 区周辺で多く検出されており、1、2 区に近い調査区では建物跡は検出されていない。そのため、集落の中心は 3 区周辺であったと考えられる。



1・2 区遠景（北東から）



2 区遠景（南から）



3 区全景（南から）



3 区掘立柱建物跡検出状況（南から）

所在地 姬路市広畑区才

事業者名 兵庫県中播磨県民センター

姫路土木事務所

事業名 (一) 広畑青山線社会資本整備総合
交付金事業

担 当 者 鈴木郁哉・西山昌孝

種 別 本発掘調査

期 間 令和4年11月2日～令和5年3月3日

面積 1846 m²

遺跡の位置（「網干」・「姫路南部」）

(一) 広畑青山線社会資本整備総合交付金事業に先立ち、兵庫県教育委員会が平成 29 年度に実施した確認調査によって、ＪＲ山陽本線の北側に広く遺跡の存在が認められ、才村遺跡として周知された。令和元年度と令和２年度には当地点の本発掘調査が行なわれた。今回はこれまで未調査であった部分の発掘調査を行った。

調査区は1区、2区、3区、4区に分かれている。

検出した遺構は竪穴建物跡2棟、土坑6基、溝4基、柱穴である。

竪穴建物跡 SH05 は南北 4.4m、東西 4.0m の方形を呈し、建物の南東半分は調査区外に延びる。検出面から床面までの深さは 10cm 前後を測る。建物西壁のほぼ中央に造り付けの竈を持つ。竈内の燃焼部底から袖部上端まで高さ約 12cm 遺存しており、燃焼部埋土からは土師器の碗や甕片が、裾部付近からは須恵器甕片が出土した。また、北壁周壁溝からメノウ製の勾玉が出土した。主柱穴は 2 本検出したが、本来は 4 本あるものと思われる。時期は古墳時代中期中葉と考えられる。

遺構面を2面検出した。第1面の遺構は中世の溝6条、柱穴22基である。第2面の遺構は自然流路を2条検出した。

第2面のSD35は調査区の全面に広がる。東へ向かって流れる流路で幅約10m、西側で深さ約1mを測る。南側斜面の上位から大量の土器が出土した。南側の川岸からの投棄と考えられ、土器の多くは川の深い方へ向かって転倒していた。遺物は庄内式土器の甕・壺・鉢・器台などが出土した。遺構の時期は庄内期の初めと考えられる。

遺構面を2面検出した。第1面の遺構は掘立柱建物跡10棟、井戸1基、溝21条、土坑8基である。第2面の遺構は竪穴建物跡21棟、井戸1基、溝10条、土坑3基、柱穴である。

掘立柱建物跡 SB05 は桁行 5 間、梁行 1 間以上の側柱建物である。柱穴から時期を特定できる遺物は出土していないが、柱穴の規模などから奈良時代～平安時代前半を想定している。

井戸 SE40 は掘方が直径約 2.5m の不整円形を呈する。掘方のほぼ中央に方形の木材で組まれた井戸枳が残存する。井戸枳は横棧縦板組で、隅柱が 3 本残っていた。井戸枳埋土最上層からは 9 世紀後半～10 世紀前半の土師器輪台塀が出土している。塀の外周底部には墨書が記されている。また井戸枳最下層からは 8 世紀後半頃の土師器杯と曲物の蓋が出土している。土師器杯にも外周底部に墨書があった。掘方からは斎串や桃核なども出土しており、複数回にわたって祭祀行為があったと考えられる。

第 2 面で検出した竪穴建物跡は、調査区南側の溝群に平行して位置する竪穴建物群と北側に位置する竪穴建物群に分けられる。建物の平面形は方形または隅丸方形である。建物の切り合いが多く、建て替えが顕著にみられる。

【4 区】

遺構は地表面から 0.6m～0.7m 下で検出した。検出された遺構は竪穴建物跡 1 棟、掘立柱建物跡 1 棟、溝 3 条、土坑 1 基、柱穴である。

掘立柱建物跡 SB34 は桁行 2 間、梁行 2 間の総柱建物である。柱穴から時期を特定できる遺物は出土していないが、棟方向が令和 2 年度調査時検出の掘立柱建物跡 SB2 と並行する点、柱穴の規模などから中世後期を想定している。

3 まとめ

弥生時代後期～終末期

2 区で溝を確認し、多量の土器が出土した。今回の調査で竪穴建物跡は確認していないものの、過年度調査では同時期とみられる竪穴建物跡が見つかった。土器の出土状況から見て、2 区の南側に当該期の竪穴建物跡があったと想定できる。

古墳時代中期～後期

1 区・3 区・4 区で竪穴建物跡などの遺構を確認した。竪穴建物跡は今回の調査で 24 棟見つか、過年度調査のものを含めると 66 棟に及ぶ。当該期における夢前川下流域の中心的な集落であったことが考えられる。

奈良時代～平安時代

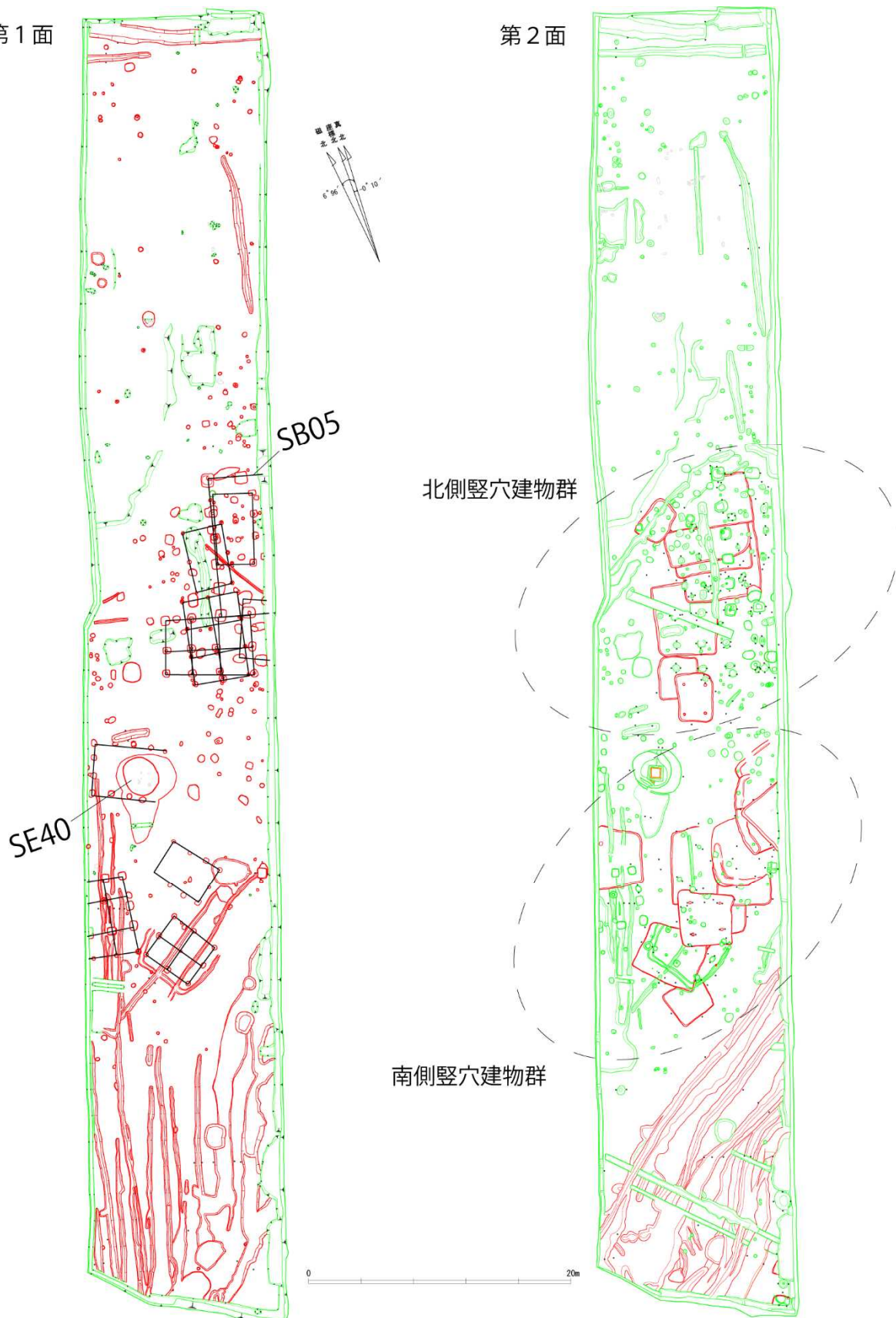
3 区で掘立柱建物跡 9 棟や井戸などの遺構を確認した。特に SB05 は他の掘立柱建物跡よりも建物および柱穴の規模が大きい。過年度調査で想定されていた官衙などの公的機関に関わる建物の可能性が考えられる。また、井戸についても覆屋と考えられる施設を付属していた可能性があり、公的機関との関連性が窺える。

鎌倉時代～室町時代

特に 3 区・4 区で掘立柱建物跡などの遺構を確認した。令和 2 年度調査時に検出した中世後期の掘立柱建物跡とも棟方向がおおよそ近いため、当該期にも集落が存在していたとみられる。これらの建物跡は江戸時代までにはなくなり、3 区北側周辺に『高尾の高畑』と呼ばれる盛土の高まりが形成される。

第1面

第2面



3区 平面図



調査区遠景（南から）



1区全景（南から）



2区 SD35 土器出土状況（東から）



3区第1面遠景（東から）



3区第1面 SE40 最下層遺物出土状況（西から）



3区第2面遠景（東から）



3区第2面 南側掘立柱建物跡群（北から）



4区 掘立柱建物跡と竪穴建物跡（西から）

7 郷着遺跡

遺跡調査番号 2022010

所在地 姫路市広畑区才
事業者名 兵庫県中播磨県民センター
姫路土木事務所
事業名 (一) 広畑青山線社会資本整備総合
交付金事業
担当者 鈴木郁哉・西山昌孝
種別 本発掘調査
期間 令和4年10月25日～11月11日
面積 111 m²



遺跡の位置（「網干」・「姫路南部」）

1 調査に至る経過

(一) 広畑青山線社会資本整備総合交付金事業に先立ち、兵庫県教育委員会が平成29年度に実施した確認調査によって、JR山陽本線の南側に広く遺跡の存在が認められ、郷着遺跡として周知された。平成30年度には当地点の調査が一部行われた。その結果、弥生時代後期～古墳時代前期、平安時代初期の集落や旧河道、大溝、耕地などが広がっていることが明らかとなっている。今回はその西側隣接部を調査することとなった。

2 調査の概要

調査区は1区、2区に分かれている。

【1区】

古代～中世の遺構面と弥生時代後期～古墳時代の遺構面の2面を調査した。

〈第1面〉

遺構は地表面から0.6m～0.8m下で検出した。検出した遺構は溝4条、柱穴2基、流路である。以下、主な遺構について述べる。

SD01は幅0.3m～0.8m、検出した長さは約7.2m、検出面からの深さは7cm前後である。調査区の北東～南西方向へ直線的に流れる。

SD02は幅3m～5.5m、検出面からの深さは25cmである。蛇行しながら調査区のおよそ北から南へ流れる。出土遺物から、遺構の時期は中世と思われる。

〈第2面〉

遺構は地表面から0.7m～0.9m下で検出した。検出した遺構は溝5条、土坑1基、柱穴1基、流路である。

SD12は幅1.7m～2m、検出面からの深さは70cmである。調査区の中央でSD13が合流する。遺構の時期は出土遺物から弥生時代後期～古墳時代初頭にあたると考えられる。

【2区】

遺構は地表面から0.3m～0.5m下で検出した。検出された遺構は溝1条、土坑1基である。

溝SD01は幅70cm、検出面からの深さ25cmで、断面は皿状を呈する。溝は調査区のおよそ北端から

北東－南西方向に調査区外へ延びている。遺構の時期は陶器のすり鉢片が出土しており、中世と思われる。

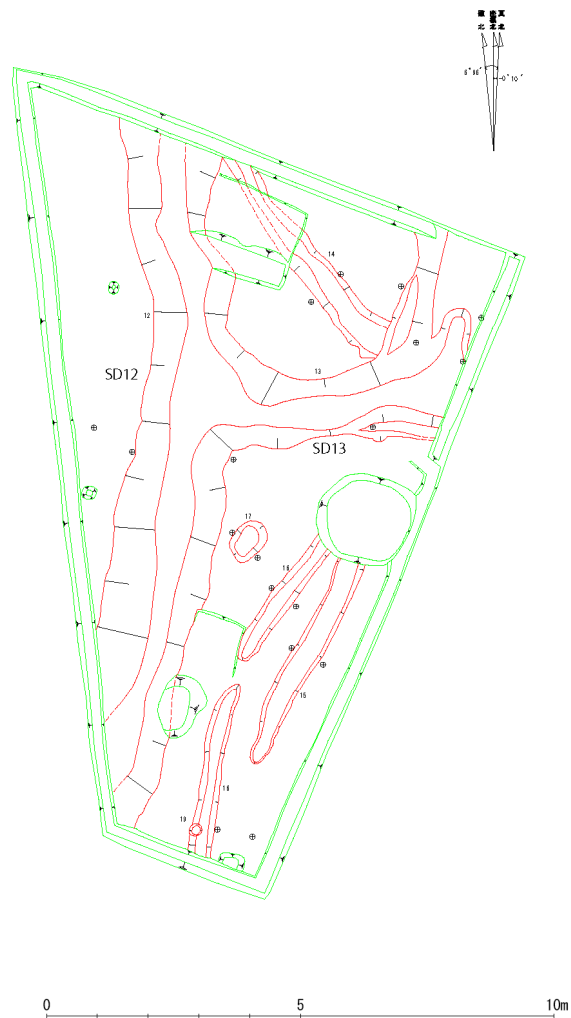
3 まとめ

調査の結果、弥生時代から中世にかけての遺構と遺物が明らかとなった。

とりわけ1区では、弥生時代から古墳時代のSD12の流れをおおよそ踏襲する形で中世の溝であるSD02が形成されていることが確認できた。

検出したほとんどの溝がSD02やSD12と同じ北東－南西方向に延びており、地形を生かして溝が形成されていることがわかった。

また、2区でも中世と考えられる遺構や遺物を確認した。



1区第2面 平面図



調査区 遠景（南東から）



1区第1面 全景（南東から）



SD02 セクション断面（南から）



SD012 セクション断面（南から）



1区第2面 全景（南東から）



2区 全景（北東から）

8 沖代遺跡

所在地 揖保郡太子町沖代

事業者名 兵庫県西播磨県民局龍野土木事務所

事業名 (一)網干停車場新舞子線社会資本整備
総合交付金事業

担当者 上田健太郎・三好元樹・稲本悠一・
乗本愛実

種別 本発掘調査

期間 令和4年11月24日～令和5年3月17日

面積 1,390 m²



遺跡の位置（「網干」）

1 調査に至る経過

兵庫県西播磨県民局龍野土木事務所による（一）網干停車場新舞子線社会資本整備総合交付金事業に伴い、依頼を受けた兵庫県教育委員会から（公財）兵庫県まちづくり技術センターの委託を受け、本発掘調査を実施した。なお、同事業にかかる本発掘調査は今年度から開始しているが、（一）網干停車場新舞子線としては平成21年度に今年度の調査区の西約150mの箇所で行っている。

今回の調査範囲は、水路を境に西側を1区、東側を2区として2地区を対象に実施した。

2 調査の概要

沖代遺跡は揖保川と林田川の合流する付近から1.4km東の沖積地に立地する。

基本層序は、現耕作土及び床土の下は近世に形成されたと考えられる旧耕作土であり、その直下が弥生時代から中世にかけての遺構面となる。各時期の遺構は安定した基盤層に掘り込まれるが、時期が古くなるにつれ遺構面の土壌化が顕著となり、遺構検出面のレベルも時期が古くなるにつれ低くなる。

【弥生時代前期（第3面－2）】

1区で溝2条（SD1502(古)・1503(古)）、2区で自然流路2条（SR2505・2506）を検出した。SD1502(古)及びSD1503(古)は横断面形が逆台形状を呈する溝で、弥生時代前期末～中期初頭に開削された。両者の間には弥生時代前期の土器を含む河川堆積の層序が観察され、両者の開削される前段階には、両者を包括する幅13m程度の流路帯としての谷部が形成されていたと考えられる。

SR2505・2506は2区東部を北東から南西に流れる自然流路である。当初は両者がひとまとまりの流路帯として開削され、北半部のSR2505とした範囲の埋没が一段階早く、SR2506が遅れて埋没した状況が観察された。いずれも弥生時代前期後葉に収まり、甕には逆L字形口縁甕も数多く認められる。

【弥生時代後期（第3面－1）】

1区で溝2条（SD1502(新)・1503(新)）、土坑1基（SK1157）、2区で溝2条（SD2001・2004）、柱穴（P2138など）、土坑1基（SK2110）を検出した。

SD1502(新)は中央部付近を、SD1503(新)は南半部において東側を弥生時代後期に再掘削している。SK1157は一辺約1.7mの方形の土坑で、底面西側には壺ないし鉢の底部が、東側には炭化した植物質が残存していた。SD2001は最大幅3.6mを測り直線的にのびつつ南壁付近で東側にカーブを描くことから、

もともと自然流路が開削した箇所を人為的に整備した可能性が考えられる。SD2004 は詳細な幅は不明ながらおよそ 2m 程度に復元され、残存する底部からは溝が直線的に開削されたことがうかがわれる。このほか、柱穴 P2138 では弥生時代後期前葉の甕が横たわった状況で出土している。

【古墳時代中期（第2面－3）】

1 区において竪穴住居跡 4 棟（SH1103・1146・1153・1163）及び溝（SD1119 など）を検出した。2 区では SD2002・SD2004 境界付近の底部において古墳時代中期中葉頃の須恵器が出土している箇所があり、当該期に SD2004 に代わる溝が開削されている可能性がある。

竪穴住居跡はいずれも方形で、SH1103 が中期前葉（TK73 型式期）まで遡る可能性があり、SH1163 と溝 SD1119 が中期中葉（TK216～208 型式期）、主軸方向の近い SH1153 が同時期の可能性がある。

SH1103 は床面に多数の炭化材が残存する焼失住居で、黄褐色の粘土で袖を構成する幅 96cm のカマドが造り付けられ、カマド内に土師器甕 2 点や複数の支脚が残置されていることから二つ掛けタイプのカマドであったと想定される。なお、カマド基盤層において袖の構築材と考えられる 3 方向の杭列が確認されたほか、基盤層の赤化した被熱痕跡が東端は東袖内側ラインと一致するものの西端が西袖よりもさらに調査区西壁の外にのびることから、複数時期のカマド構築の変遷の可能性が考えられる。



竪穴住居跡 SH1103 カマド（南から）

SH1163 は東西 6.7m、南北 5.7m の長方形を呈し、SH1146 を切る。床面付近から滑石製の勾玉 1 点と白玉 2 点が出土した。なお、東寄りの支脚と思われる立石や焼土、土師器片のまとまりと、南寄りの加耶系とみられる蓋を伴う土坑 SK1156 やほぼ完形の須恵器坏身 2 点が、いずれも床面から 20cm 余り浮いた標高 5.5m 付近に集中することから、異なる高さの床面の竪穴住居跡が存在する可能性がある。

SH1146 は長さ 6.4m を測り、北壁中央付近の床面に手持ち砥石が残置されていた。

SD1119 は幅 2.0m を測り、埋土に TK216 型式を中心とする初期須恵器や韓式系軟質土器が含まれていた。遺構検出時に付近からコンパス文須恵器器台片が出土していることは特筆される。

【古墳時代後期（第2面－2）】

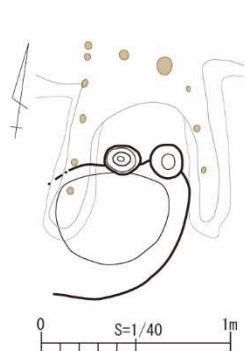
1 区北西部において竪穴住居跡 5 棟（SH1101・1102・1130・1136・1162）及び溝（SD1160 など）を検出した。2 区では溝 2 条（SD2002・2160）を検出した。

竪穴住居跡は SH1162 が古墳時代後期後葉（TK43 型式期）で、切り合う 4 棟は古墳時代後期末（TK209～TK217 型式期）に SH1130→SH1136→SH1102→SH1101 の順に変遷している。

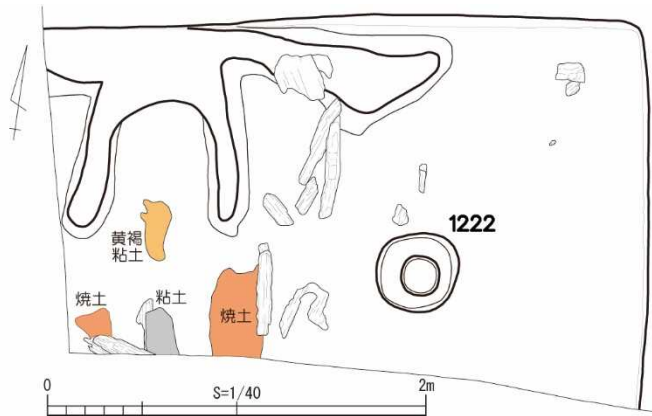


古墳時代後期の竪穴住居跡群（西から）

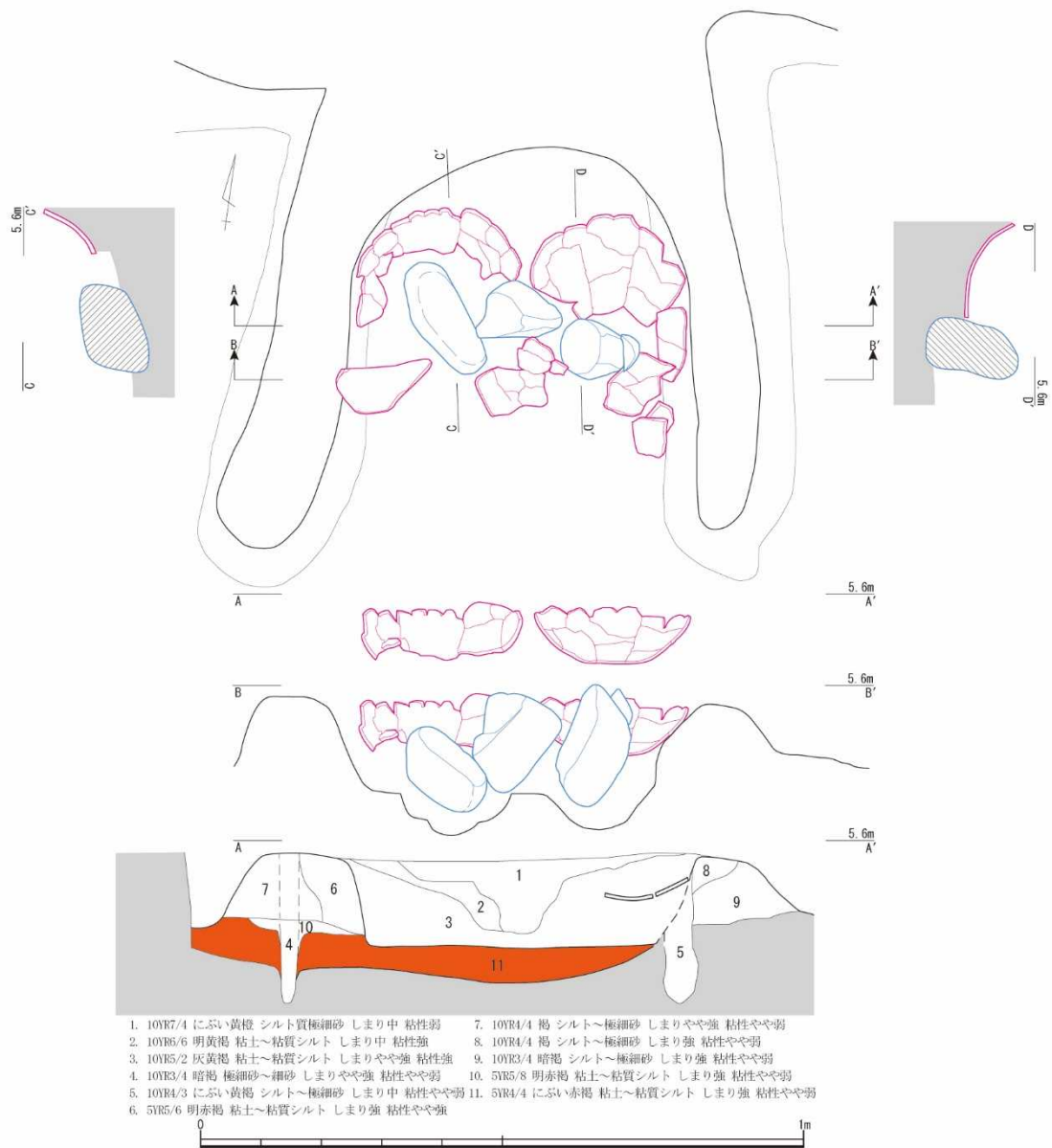
SH1101 はカマドを持ち、カマドの北東方向に甗などの土師器の破片が散乱した状態で検出された。カマド内には粘土で支脚を立てた痕跡があり、その直下に円筒状の掘り方が認められた。カマド内埋土を篩掛けしたところ、魚の椎骨が含まれていた。



カマド基盤打設杭列



1区竪穴住居跡 SH1103 平面図



1区竪穴住居跡 SH1103 カマド内土師器・支脚平面図・見通し図・断面図・カマド土層断面図

SD1160 及び SD2160 は同一の溝と考えられ、最大幅 1.3m、横断面形は逆台形を呈し、北壁土層断面では薄い単位でのシルト層や砂層で互層が形成されており、管理された用水路の可能性が指摘される。

SD2002 は最大幅 6.0m、古墳時代後期末（TK209 型式期）に SD2004 に近接する位置に開削され、横断面形は逆台形を呈する。底面に 8 基以上の粘土採掘坑が掘られている。

【飛鳥時代（第 2 面－1）】

1 区の掘立柱建物跡 SB1215、2 区の溝 SD2003 が当該期に属する可能性がある。

SB1215 は SH1136・1102 を切る東西 3 間以上×南北 2 間以上の側柱建物で、主軸方向は N25.9° E を指向する。SD2003 は蛇行しつつ直線的にのび、幅 1.5m、底面に長さ 54cm の板石を置いた箇所がある。

【奈良時代（第 1 面－3）】

1 区の溝 SD1018、2 区の掘立柱建物跡 SB2141 が当該期に属すると考えられる。

SD1018 は南北方向にのび、埋土に古墳時代中期から奈良時代までの土器や古墳時代中期から後期のものと考えられる薄手の轆羽口が出土している。

SB2141 は方形の柱掘り方の東西 2 間以上×南北 2 間以上の建物で中央に設けられた柱穴が束柱と考えられる。主軸方向は N28.5° W を指向する。



奈良時代の掘立柱建物跡 SB2141（北西から）

【平安時代前期（第 1 面－2）】

2 区を東西に横断する溝 SD2020 が該当する。2 区西端で最大幅 3.7m を測る。

【中世（第 1 面－1）】

1 区において掘立柱建物跡 2 棟（SB1020・1021）、土坑 1 基（SK1016）などを検出した。

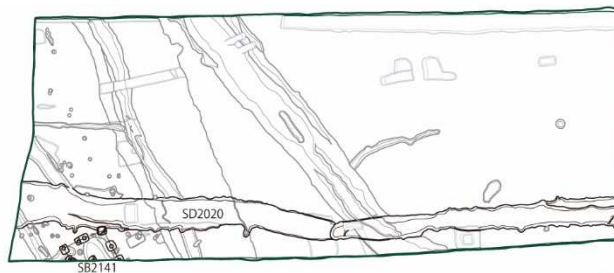
SB1020 は東西 3 間×南北 2 間以上の総柱建物で、主軸方向は N1.0° W を指向する。SB1215 の柱穴を切る。SB1021 は東西 2 間以上×南北 1 間以上の総柱建物で、主軸方向は N8.1° W を指向する。

3 まとめ

調査箇所西半部で、古墳時代から中世にかけての集落跡を確認した。古墳時代中期前葉の二つ掛けカマドを造り付けた SH1103、初期須恵器や韓式系軟質土器などをもつ SH1163 や SD1119 は、すぐ東側で検出されたコンパス文須恵器器台や轆羽口とともに渡来系要素の西播磨地域への受容のあり方を示す好例となる。沖代遺跡は、北東約 800m の鍛冶田遺跡や前田遺跡とともに地域での重要な拠点であったことがうかがわれる。さらに、コンパス文須恵器器台が韓半島南東部の洛東江流域に祖型が求められること、形態や容量の近似した土器どうしを伴う二つ掛けカマドが韓半島南西部の栄山江流域に共通性を持つことから、複数の故地の情報を複合的に併せ持った要素が西播磨にもたらされた状況が看取される。

また、調査区全域にわたって弥生時代から飛鳥時代の溝 7 条を検出した。主軸方向 N9° W～N38.4° W（平均値 N23.9° W）を指向し、地形の傾斜に沿って水を流す水路と推察される。弥生前期末・中期初頭に横断面形逆台形の大溝 2 条が開削は、弥生時代前期後葉まで自然流路から取水していた状況から、安定的な取水を図り水田域を拡大させる転換期となったことが挙げられる。また、奈良時代の SB2141 も地形に沿った主軸方向を指向し、奈良時代の溝 SD1018 や平安時代前期の溝 SD2020 が南北ないし東西方向に近い主軸方向を指向することは、この間に地割方向の転換点がある可能性が考えられる。

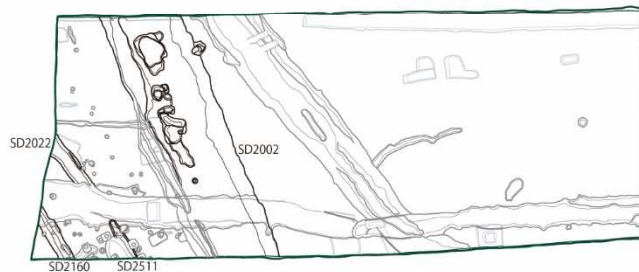
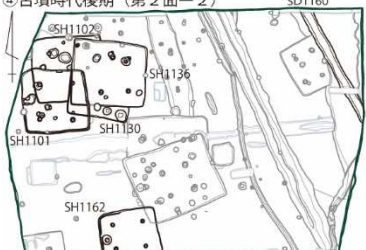
⑥奈良時代～中世（第1面） SD1018



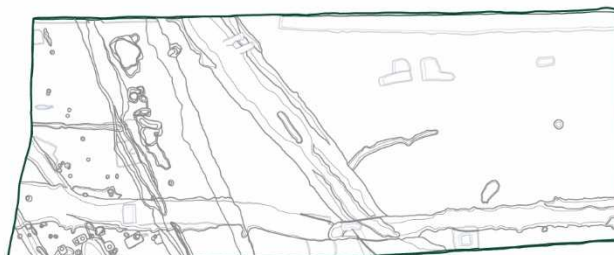
⑤飛鳥時代（第2面-1）



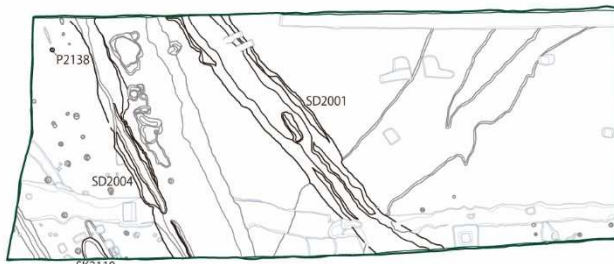
④古墳時代後期（第2面-2） SD1160



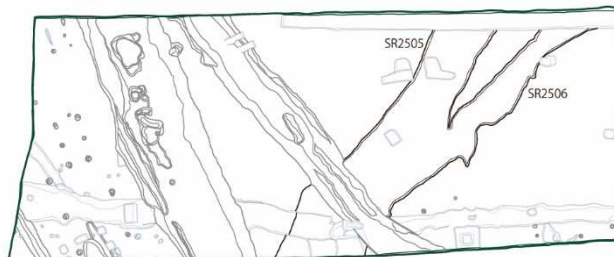
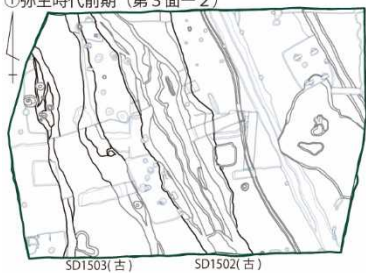
③古墳時代中期（第2面-3）



②弥生時代後期（第3面-1）



①弥生時代前期（第3面-2）



0 50m

遺構の変遷

いくのこうざん 9 生野鉱山

遺跡調査番号 2022066

所在地 朝来市生野町奥銀谷
事業者名 兵庫県但馬県民局養父土木事務所
事業名 (砂) ウルシ谷通常砂防事業
担当者 鐵 英記
種別 本発掘調査
期間 令和4年8月4日～8月5日
面積 20 m²



遺跡の位置（「生野」・「但馬新井」）

1 調査に至る経過

兵庫県但馬県民局但馬土木事務所では、朝来市生野町奥銀谷において通常砂防事業（砂）ウルシ谷により、砂防堰堤の設置を計画した。当該事業用地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である生野鉱山の範囲に含まれている。分布調査の結果、堰堤の設置箇所には坑道はないが、堆砂域に近世に遡るとされる坑口が複数あり、工事に際して、危険防止のため入り口を塞ぐこととなった、開口部の形状等を記録するための調査を実施した。

2 調査の概要

堰堤の設置される谷部には7カ所の坑口が確認されているが、そのうち入り口が充填される5カ所について写真撮影と作図を実施した。谷入り口から奥に向かってNo.1 坑口～No.5 坑口と呼称する。

No.1 坑口 崖面に対して直行するように開口している。幅 60 cmを測り、斜め下方に伸びていく。

No.2 坑口 崖面に対して直行するように開口している。開口部は幅 40 cm、高さ 60 cmの方形に整えられている。入り口から 50 cm入った部分で大きく広がる。奥から空気が流れ出ている。

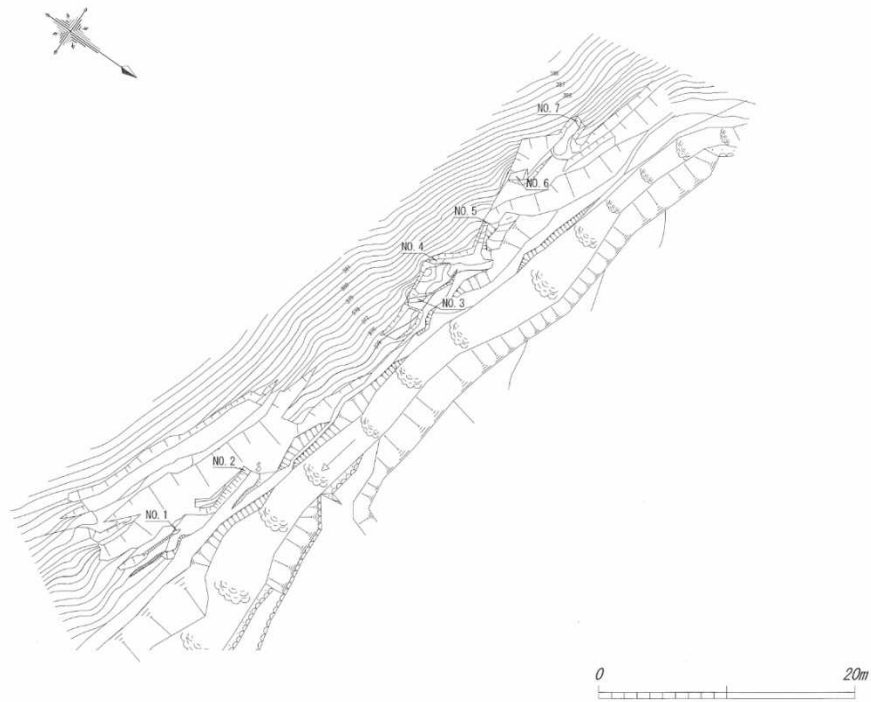
No.3 坑口 平坦な岩盤に垂直方向に穿たれている。幅 40 cm、長さ 100 cmの方形を呈する。内部に汚泥が溜まっているため、内面の状況は不明である。

No.4 坑口 岩盤に切り込むように穿たれている。開口部は幅 40 cm、長さ 30 cm程度の方方形を呈する。内部に汚泥が溜まっているため、内面の詳細は不明である。

No.5 坑口 岩盤の突出部を垂直に切った後に開口部を穿つ。開口部の幅 60 cmで、開口部の天井は入り口から 60 cm程度水平に伸びた後、下方に下がっている。

3 まとめ

今回、調査を実施した坑口はいずれも横幅が 40～60 cm程度と狭小なものである。開口部のみの調査であるため、内部の詳細は不明であるが、水平方向ではなく下方に向かって伸びていくことから、縦坑と考えられる。



平面図



No.1 坑口（北から）



No.2 坑口（北から）



No.3 坑口（北から）



No.4 坑口（北から）



No.5 坑口（北から）

いくのこうざん
10 生野鉾山

遺跡調査番号 2022067

所在地 朝来市生野町口銀谷
事業者名 兵庫県但馬県民局養父土木事務所
事業名 (砂) 寺の上川通常砂防事業
担当者 鐵 英記
種別 本発掘調査
期間 令和4年9月26日～9月27日
面積 40 m²



遺跡の位置（「生野」・「但馬新井」）

1 調査に至る経過

兵庫県但馬県民局養父土木事務所では、朝来市生野町口銀谷において通常砂防事業（砂）寺の上川により、砂防堰堤の設置を計画した。当該事業用地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である生野鉾山の範囲に含まれている。分布調査の結果、堰堤の設置箇所に近世に遡るとされる坑口があり、工事により影響を受けるため、坑口の形状を記録するための調査を実施した。

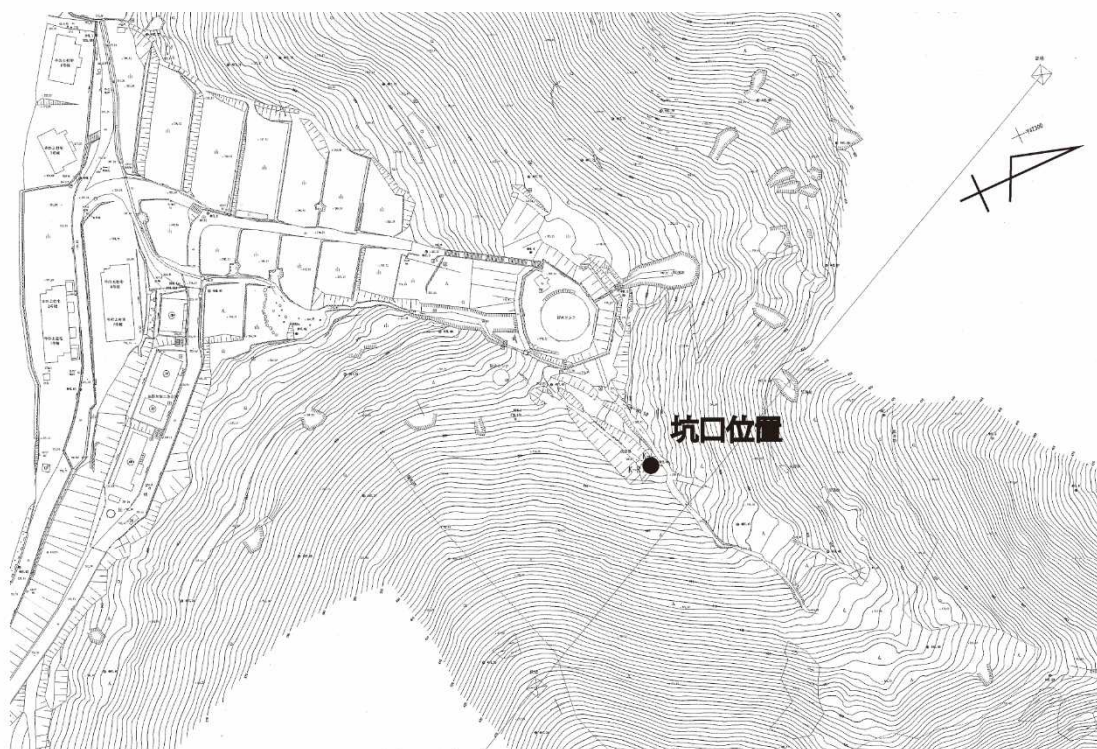
2 調査の概要

坑口は開削されたと考えられる谷状地形の奥に位置している。掘削前の地表面からは2 m近く下がった部分で開口部を発見した。状況から考え、土石流により一気に埋没したものと判断される。

坑口開口部は幅 110cm、縦 100cm の半円形を呈し、80 cm奥に入ったところから幅 100 cm、縦 80 cm の方形となっており、ほぼ水平に奥へ伸びてゆく。280 cm程度までは確認したが、それより奥については危険なため進入していない。開口部の床にはモルタルで固められた石綿性管が設置されており、近代以降に一種の取水施設として再利用されていた可能性が考えられる。

3 まとめ

今回の調査で検出した坑道は、採掘終了後も採水地として利用されており、廃絶した坑道の再利用法として興味深い。



坑口位置図 (S=1/1000)



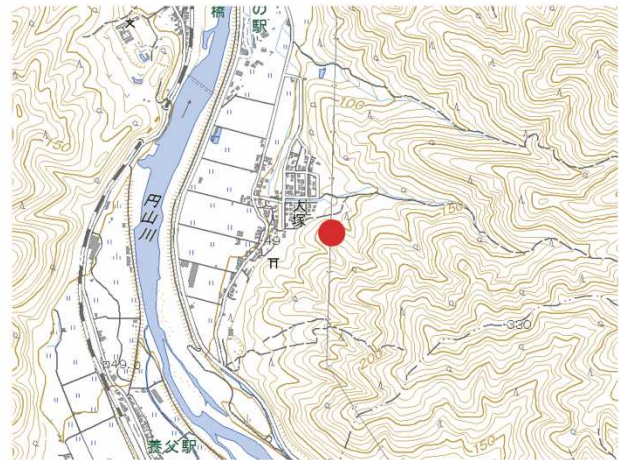
掘削前（南西から）



坑口（南西から）

11 ^{みつきの}三月野古墳群

所在地 養父市大塚
 事業者名 兵庫県但馬県民局養父土木事務所
 事業名 (砂) 本郷谷川砂防えん堤工事
 担当者 稲本悠一・乗本愛実・三好元樹
 種別 本発掘調査
 期間 令和4年8月16日～10月14日
 面積 235 m²



遺跡の位置 (「八鹿」)

1 調査に至る経過

兵庫県但馬県民局養父土木事務所は養父市大塚において(砂)本郷谷川砂防えん堤工事を計画していた。当該事業用地には、周知の埋蔵文化財包蔵地(三月野2・3号墳)があり、令和4年度4月に確認調査を行った結果、三月野3号墳が事業用地内に存在することが明らかになった。以上の経緯を踏まえ、三月野古墳群(三月野3号墳)の本発掘調査を実施した。

2 調査の概要

今回調査した三月野3号墳は、横穴式石室を埋葬施設とする古墳時代後期の円墳である。当古墳は円山川東岸に発達する丘陵尾根線上に立地する。調査地点の標高は約98～105mである。調査前の状況については、横穴式石室の天井石が露出し、左側壁上方と玄門付近が開口していた。

墳丘 石室の天井石が露出していたことから、墳丘盛土の一部は流出したとみられる。墳丘の北部は一部が調査区外のため未調査だが、規模は南北約9m、東西7.5mで、平面形は南北に長い楕円形を呈する。調査の結果、古墳は丘陵尾根線上の比較的傾斜の緩い地点を切り盛りして平坦面を整え、そこに盛土・石室の構築を行い造られたことが明らかになった。墳丘盛土は最も高いところで2.0m残存していた。墳丘の裾部には、区画を明確にし、墳丘の崩れを防ぐための外護列石が全面に施されていた。また、墳丘内部には古墳構築時に、土留めを目的として設けられた墳丘内列石が良好な状態で残存していた。

墳丘の東側から南側においては、幅0.4～0.8mの周溝が確認された。周溝は、石室入口(羨門)の南東側に設けられたテラス部と接することから、部分的に墓道の役割を兼ねていた可能性がある。周溝からは、須恵器の甕が出土した。据付穴は確認できなかったが、何らかの祭祀に伴い、置かれた可能性が考えられる。また、羨門前のテラス部から滑石製紡錘車が出土した。

埋葬施設 埋葬施設は墳丘の中心にある横穴式石室である。石室の主軸はおよそ南北方向を取り、南方向に開口する。床面の平面形態は右片袖式であり、全長5.8m、玄室奥壁で幅1.3～1.4m、玄門で0.9m、羨門幅で0.9m、高さ1.9mを測る。玄室と羨道の長さはそれぞれ2.9mである。

玄室は、側壁が上方に向かって幅を減じる、いわゆる持ち送りである。床面の幅は1.3～1.4mだが、床面から1.4mより上にかけて幅を減じ、天井石付近での幅は0.65～0.8mとなる。玄門には、高さ1.2mの立柱石を置き、明確な袖部をつくる。

羨道は、玄門部の天井石1石が残存しており、玄門を境に玄室天井より0.3m低くなる。玄門付近から羨門側へ1.3m、高さ0.9mの範囲で、埋葬時に入口を閉じるための閉塞石が良好な状態で残っていた。この閉塞石の範囲から、残存していた天井石に加え、羨門側にもう一石あったことが推定される。

石室の床面には、10～40 cmの板石を用いて、敷石を設けている。この敷石は、玄門から羨道側に40 cm程の範囲まで置かれるが、袖部付近では、約80 cm四方の範囲で、敷石のない部分が存在する。

石室内の遺物 石室が開口していたことから、盗掘を受けていると考えられるが、石室内の奥壁付近と玄室中央よりやや玄門寄りの左側壁付近、袖部付近の3ヶ所からまとまって遺物が出土した。

奥壁付近 刀子等の鉄製品と須恵器（杯蓋2点・杯身1点）、玉類（水晶製切小玉、ガラス製小玉・丸玉、滑石製白玉、碧玉製管玉、合計79点）が出土した。

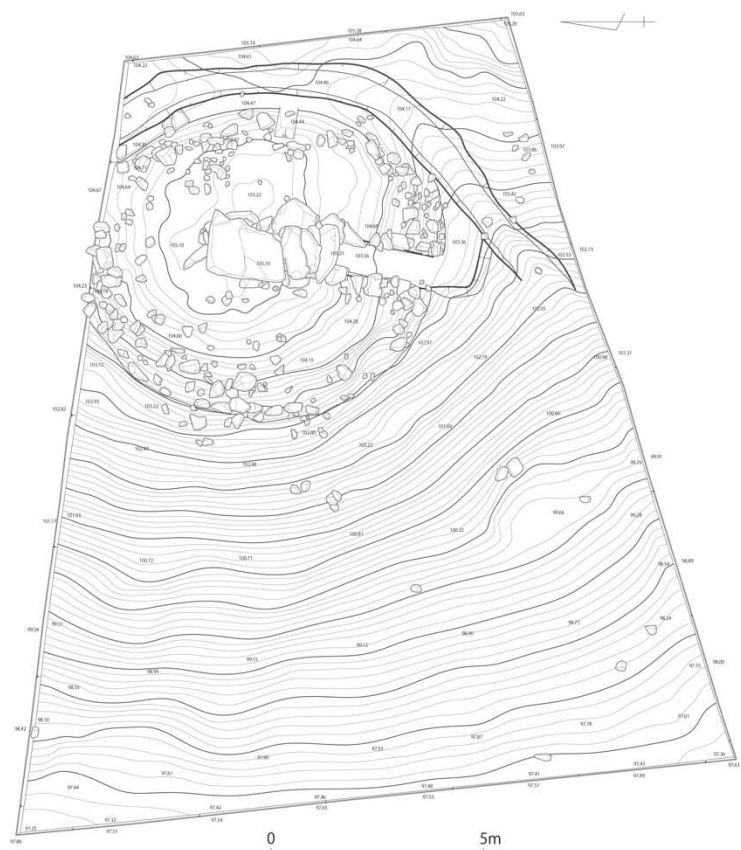
左側壁付近 鉄製の小形直刀（刀子の可能性もある）と鉄鏃5本がまとまって出土した。

袖部付近 敷石のない部分であり、ここから須恵器（杯蓋1点・杯身3点）が出土した。奥壁付近から出土した須恵器よりわずかに新しい時期のものと考えられる。

3 まとめ

今回の発掘調査では、横穴式石室を埋葬施設とする三月野3号墳の様相を明らかにすることができた。出土遺物や石室の構造から、古墳時代後期の6世紀後半頃に築造されたものと考えられる。外護列石は、養父市域をはじめとして、周辺の古墳でも多く確認されており、当古墳は但馬地域の特徴が色濃くみられる在地的な古墳と評価できる。

また、墳丘の規模や副葬品の様相から、三月野3号墳の被葬者は、当該地域を治めた首長層ほどのランクではないものの、有力家長クラスの人物であったことが想定される。出土遺物に注目すると、奥壁付近出土の須恵器が古く、袖部付近のものがこれより新しいものであった。両者の時期差を踏まえると、奥壁付近が初葬に伴う遺物、袖部付近のものが追葬に伴う遺物と判断でき、最初の被葬者の家族が追葬された可能性が高い。



調査区平面図



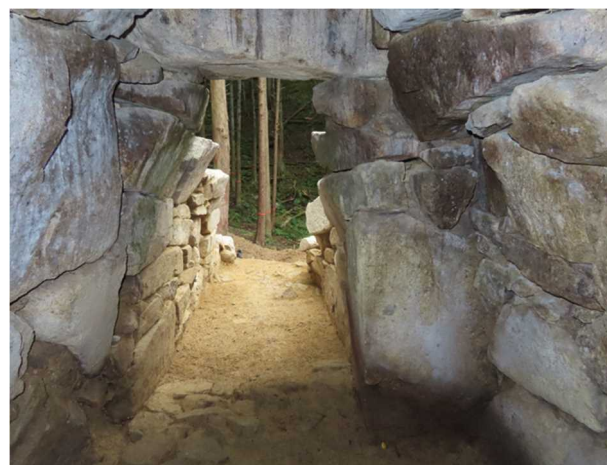
三月野3号墳 全景（南から）



羨門東側外護列石（上・南東から）と
北東部墳丘内列石（下・東から）



奥壁 （南から）



玄門・立柱石 （北（奥壁側）から）



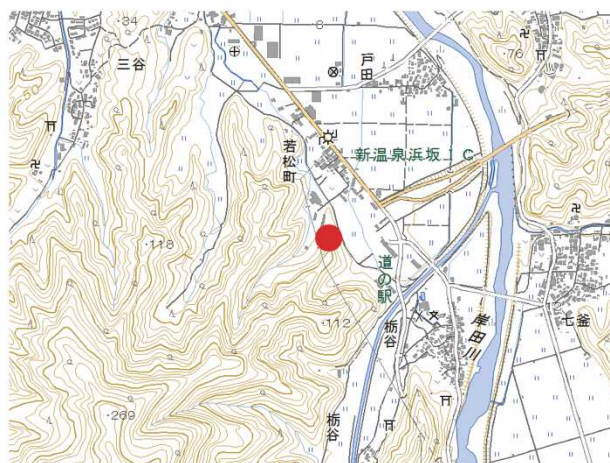
羨道東側壁 （南西から）



奥壁付近 須恵器・鉄製品出土状況 （南から）

12 初瀬谷・柏谷古墳群

所在地 美方郡新温泉町
 事業者名 兵庫県但馬県民局新温泉土木事務所
 事業名 地域連携推進（道路改築）事業
 （（国）178号浜坂道路Ⅱ期）
 担当者 稲本悠一・山田清朝・園原悠斗・
 池田 旭
 種別 本発掘調査
 期間 令和4年5月9日～7月8日
 面積 665 m²



遺跡の位置（「浜坂」）

1 調査に至る経過

兵庫県但馬県民局新温泉土木事務所による地域連携推進（道路改築）事業（（国）178号浜坂道路Ⅱ期）に先立ち、兵庫県教育委員会が平成29年度に分布調査、令和2年度に確認調査を行った。その結果、岸田川西岸の南北に延びる丘陵尾根部において、墳丘墓あるいは古墳等の埋蔵文化財が包蔵されていることが明らかになった。当地点は周知の埋蔵文化財包蔵地ではなかったため、新たに初瀬谷・柏谷古墳群とし、本発掘調査を実施した。

2 調査の概要

調査対象地は美方郡新温泉町七釜に位置し、地形的には岸田川西岸に発達する丘陵尾根線上に立地する。調査区は最も高い南部で標高約56.5m、最も低い北部で標高約22mとなっており、南から北に向かって傾斜する丘陵尾根線上に位置する。急峻な尾根線上だが、部分的に緩傾斜で平坦面を有する場所がみられ、これらに遺構が存在したことから、この緩傾斜地を包括した調査区3つを設定し、標高の低い北側から1・2・3区とした。以下、主な成果について述べる。

【1】1区

計8基の埋葬施設と土壌を検出した。8基の埋葬施設については6号墳として調査を進めた。いずれも組み合わせ木棺を埋葬主体とする木棺墓である。

6号墳 丘陵尾根の東側の流出が著しく、墳丘の規模や墳形は不明であるが、盛土は確認できず、地山を削り出して成形したものとみられる。第1主体部と第2主体部のみ墓壇上面から土師器片が出土したが、副葬品の出土は認められなかった。土師器については、埋葬後に墓壇上に置かれたものと考えられる。土器の年代は弥生時代終末期～古墳時代初頭である。

【2】2区

標高41.5～28.5mの丘陵中腹に位置する。墳墓1基（4号墳（墓））、古墳1基（5号墳）、墳丘を有さない木棺墓2基を検出した。

4号墳（墓） 調査区南側の上段の平坦部に、地山削り出しによって造り出された墳丘墓である。南側斜面との境界は地山を削り出したカット面と区画溝によって表現される。区画溝の規模は幅2.4m、深

さ 20 cmである。墳丘規模は東西両斜面が一部流土しているものの、長軸方向に 7.4m、直交する短軸方向に 4.7mである。平面形は長方形であり、台状墓に分類される。4基の埋葬施設を検出した。4号墳（墓）の時期は出土土器から弥生時代後期後葉頃と考えられる。

第1主体部 4号墳（墓）の中央付近に位置する。主軸は尾根線と直交する。墓壇は、長さ 3.0m、幅 1.7m、深さ 85 cmであり、平面形は長方形である。墓壇内には長さ 2.3m、幅 70 cm、深さ 40 cmの箱形木棺が据えられたと推定される。また、小口側には地山を掘り込んだ小口孔を検出した。墓壇直上から一括性の高い土器群が出土した。棺内副葬は確認されなかった。なお、墓壇直上から、円磨度の高い川原石が出土しており、主体部上の標石であった可能性が考えられる。

第4主体部 第1主体部の北側に位置する。主軸は尾根線と直交する。墓壇は、長さ 2.1m、幅 1.0 m、深さ 35 cmであり、平面形は長方形である。墓壇内には長さ 1.5m、幅 50 cm、深さ 35 cmの箱形木棺が据えられていたと推定される。墓壇直上から土器片が出土し、棺内副葬として、管玉（緑色凝灰岩、碧玉、青色ガラスの3種）が出土した。

5号墳 調査区北側の下段の平坦部に造り出された古墳である。地山を削り出したのち盛土によって成形される。盛土の多くは既に流出していた。南側斜面との境界は地山を削り出したカット面により表現される。墳丘規模は各斜面の流土が著しく判然としない。古墳時代後期後半の埋葬施設を2基検出した。なお、5号墳の2基の埋葬施設は墓壇掘形の規模や深さ、木棺の主軸方向などから同一墓壇掘形の並列埋葬の可能性も考えられる。

第1主体部 5号墳の東側に位置する。西側の一部が流出していた。主軸は概ね東西方向で、尾根線の直交方向から若干南北方向に傾く。墓壇は、検出長 4.0m、幅 1.6m、深さ 50 cmであり、平面形は不整形な長方形である。墓壇内には長さ 3.5m、幅 0.7～1.1m、深さ 50 cmの割竹形木棺が据えられたと推定される。主体部直上からは、一括性の高い完形の土器（須恵器・赤彩土師器）が出土した。この土器群は木棺の埋め戻し後の祭祀に伴うものとみられる。棺内副葬は確認されなかった。

第2主体部 第1主体部の北側に位置する。主軸は第1主体部と平行する。墓壇は、長さ 3.2m、幅 1.5 m、深さ 50 cmであり、平面形は不整形な長方形である。墓壇内には長さ 1.9m、幅 0.5m、深さ 30 cmの割竹形木棺ないしは箱形木棺が据えられたと推定される。主体部直上から少量の須恵器片と土師器壺が出土した。棺内副葬は確認されなかった。

【3】3区

遺構は溝によって区画された3基の墳墓を検出した。3基の墳墓の時期は、出土した土師器や副葬品の様相から、古墳時代前期前葉頃と考えられる。

2号墳 3区の中央付近に位置する。1号墳と3号墳の間には区画溝を有する。1号墳との間の区画溝は幅 65 cm、深さ 10 cmである。3号墳との間の区画溝は幅 1.65m、深さ 50 cmで、断面形は逆台形である。2号墳では3基の埋葬主体を検出した。

第1主体部 2号墳のおよそ中央に位置する。主軸は尾根線と直行する方向を取る。墓壇の位置や規模から、2号墳の中心埋葬施設と考えられる。墓壇は、長さ 2.9m、幅 2.0m、深さ 95 cmである。検出面から 35 cm下で、ほぼ平坦といえるステップ上の面を有することから、いわゆる二段墓壇といえる。長さ 2.15m、幅 50 cmの箱形木棺が入れられたとみられる。主体部検出時並びに掘削時に土師器片が、また棺底の北側小口付近からは鉄製武器が出土した。鉄製武器は、先端を北西方向に向け、木棺と平行するように置かれていた。

第2主体部 第1主体部の北東側に位置する。墓壙は、長さ2.6m、幅1.1m、深さ60cmである。棺は長さ2.0m、幅0.65mの箱形木棺である。当主体部からは、副葬品として青銅鏡の破片（破鏡）、玉類（ガラス勾玉・ガラス小玉・管玉）、鉄製品（鉄鎌か）が副葬されていた。青銅鏡は後漢で製作された内行花文鏡であり、出土したのは鈕の部分である。

3 まとめ

今回の調査では、弥生時代後期後葉から古墳時代後期の墳墓と古墳を合計6基、これらに伴う埋葬施設22基を検出した。また、出土遺物の様相から、弥生時代後期後葉の4号墳（墓）→弥生時代終末期～古墳時代初頭の6号墳→古墳時代前期前葉の1～3号墳、空白期間を挟んで古墳時代後期の5号墳という変遷が把握できる。調査地点は、極めて幅の狭い痩せ尾根ではあるが、継続的に墓域として利用されたことが明らかになった点は、岸田川流域の当時の墓制を考える上で重要な成果になったといえる。

出土遺物に注目すると、4号墳（墓）、6号墳、1～3号墳から出土した、鼓形器台などの弥生土器・土師器は、いずれも因幡地域（現在の鳥取県域）のものと形態が共通しており、因幡地域と共通の文化圏にあったことを示している。さらに、2号墳第2主体部から出土した青銅鏡は中国大陸で製作されたものであり、同主体部と4号墳（墓）から出土したガラス製の玉類は、その原材料が国産のものではない等、貴重な器物が出土した点が注目される。

一連の調査成果と、当古墳群が岸田川流域を一望できる見晴らしの良い場所につくられていることから、これらは当該地域の有力家長とその近親者の墓である可能性が高い。山陰から北近畿地方における弥生・古墳時代の地域社会や埋葬方法を考える上での貴重な発見となった。



調査地点全景（北上空から）



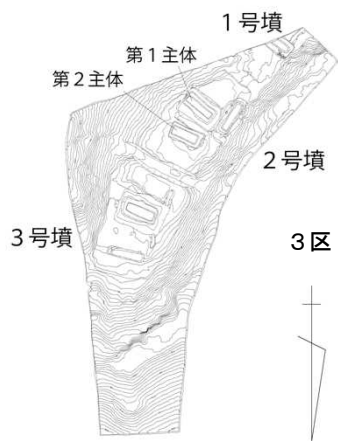
1区 6号墳（北上空から）



2区 4・5号墳（北西上空から）



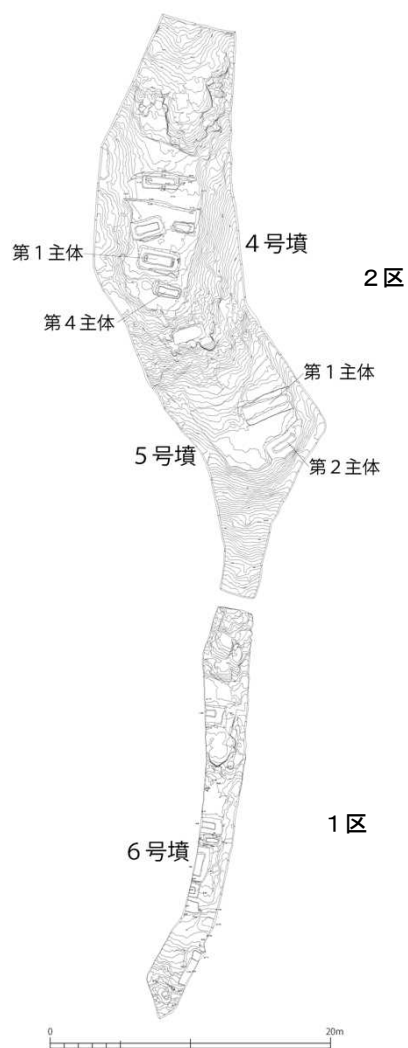
3区 1～3号墳（北西上空から）



2号墳 全景（西から）



2号墳第2主体部 青銅鏡・玉・鉄製品出土状況（南から）



調査区平面図



4号墳 俯瞰写真（下が北）



4号墳第1主体部 土器出土状況（南から）

13 宇山遺跡

所在地 洲本市宇山

事業者名 国土交通省近畿地方整備局
兵庫国道事務所

事業名 一般国道 28 号洲本バイパス事業

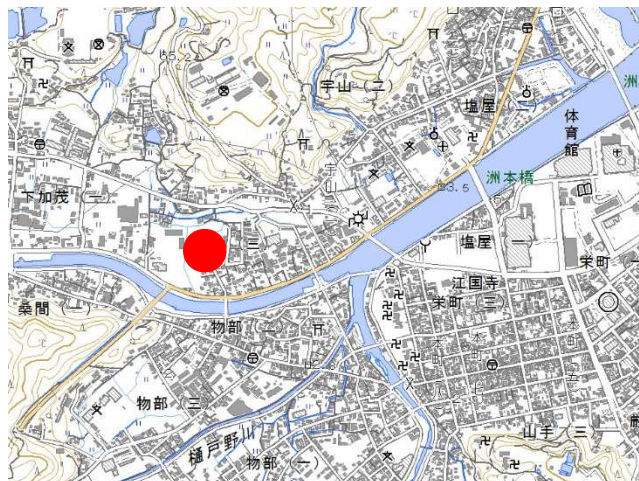
担当者 西山昌孝・上田健太郎・乗本愛実

種別 本発掘調査

期間 令和 4 年 9 月 16 日～10 月 27 日

面積 892 m²

遺跡調査番号 2022006



遺跡の位置（「洲本」）

1 調査に至る経過

国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所では上記事業を計画しており、事業対象箇所について令和元年度に本発掘調査を実施したが部分的に未買収地が残存していた。その箇所について、令和 4 年度に同事務所からの依頼を受けた兵庫県教育委員会から（公財）兵庫県まちづくり技術センターの委託を受け、本発掘調査を実施した。

2 調査の概要

調査は令和元年度調査区に隣接する箇所ので 6 区・7 区の 2 地区を対象に実施した。

【6 区】

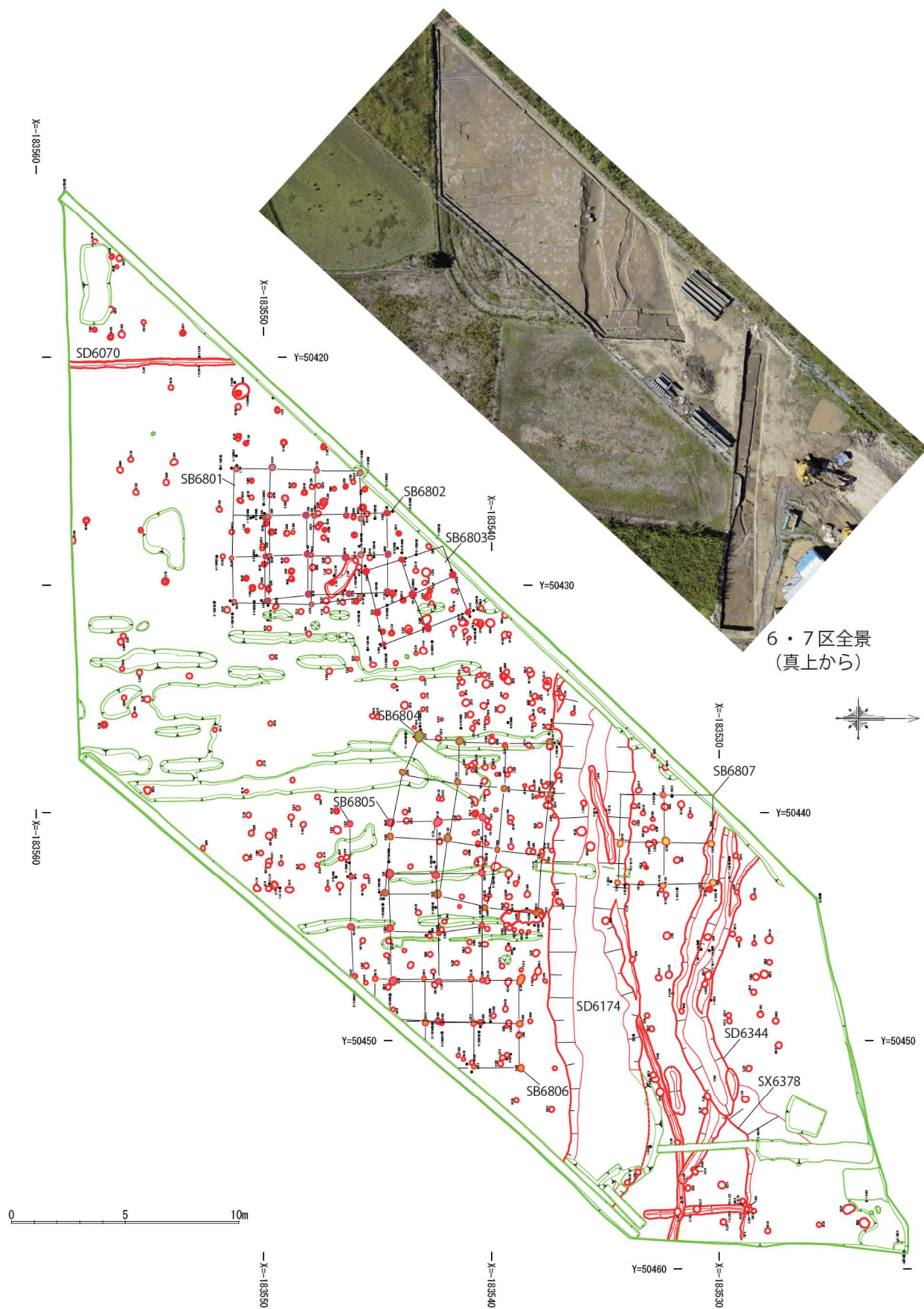
検出した遺構は中世（鎌倉時代から室町時代）の掘立柱建物 7 棟、柱穴多数、土坑 3 基、溝 4 条、落ち込み、弥生時代後期の溝 1 条である。

中世の掘立柱建物 7 棟（SB6801～6807）はいずれも南北方位に近い主軸方向を指向する。建物は 3 間×3 間が 2 棟（SB6801・6804）、2 間×3 間が 3 棟（SB6802・6805・6806）、2 間×2 間が 2 棟（SB6801・6804）で、このうち SB6805 は東側と南側に庇が付く。柱穴からの出土遺物は少なく詳細な帰属時期は不明であるが、溝 SD6174 や 2・4・7 区で検出された南北方向の溝（SD03・SD7006）に主軸方向が合致すること、SB6807 の柱穴が溝 SD6174 を上から切って掘り込まれていること、7 区 SD7006 底部から 12 世紀前半の須恵器椀底部が出土していることから、建物群がそれより後出する蓋然性が高い。

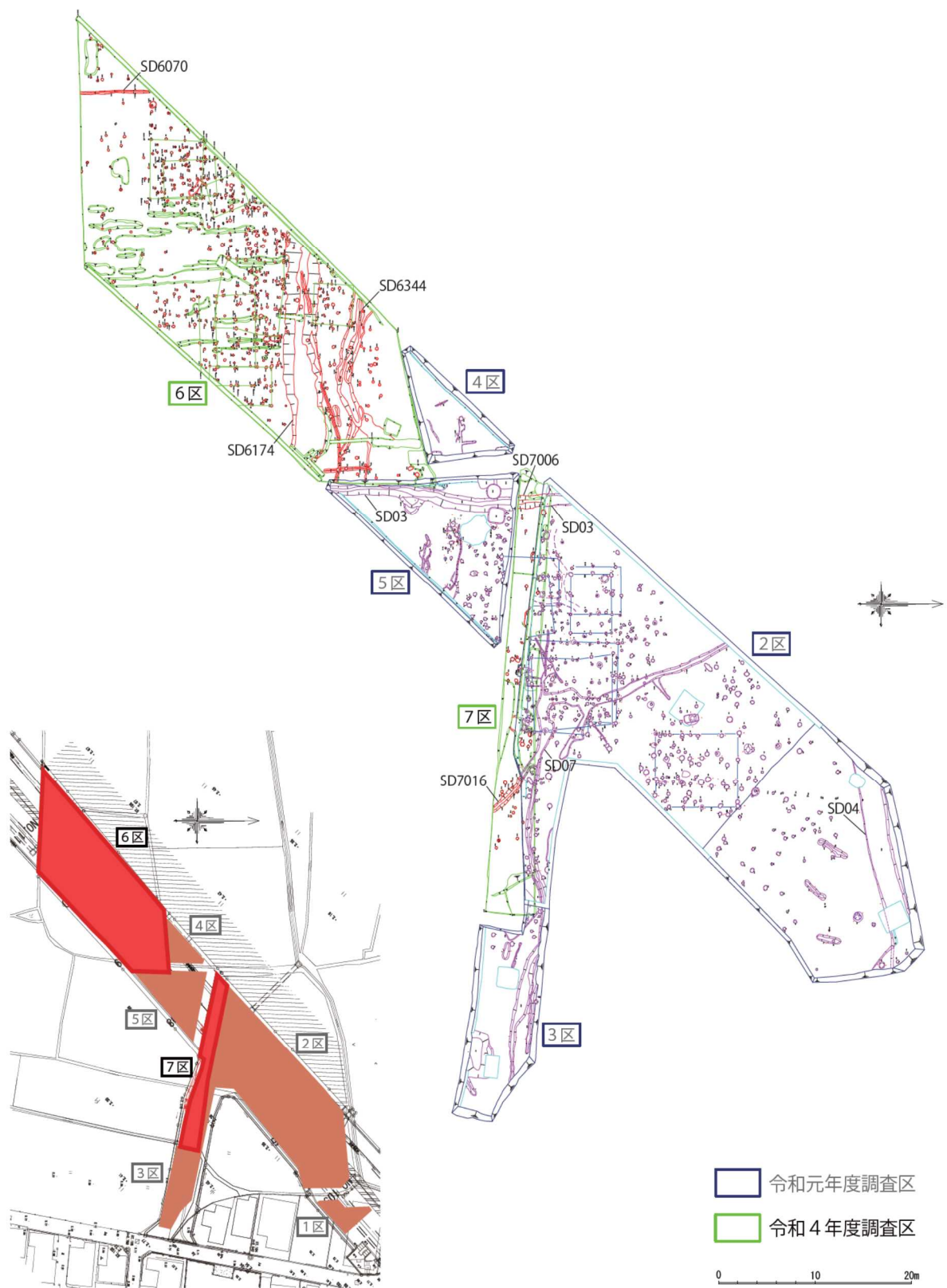
溝 SD6174 は最大幅 4.1m、検出面からの深さ 91cm を測る。溝底レベルが東側よりも西側で 27cm 低く、地形の傾斜とは逆行して東から西へ流れていた蓋然性が考えられる。詳細な時期及び隣接する 4 区 SD03 との切り合い関係は不明であるが、SD03 及び SD7006 とさほど前後しない時期に開削された可能性が考えられる。

弥生時代後期の溝 SD6344 は、中世に埋没する落ち込み SX6378 の南肩を沿うように弧を描き、最大幅 2.4m、深さ 39cm を測る。溝底のレベルが西側に比べて東側が 31cm 深く、地形の傾斜に沿って東流していたものと考えられる。

なお、遺構検出面から韃羽口の小片が出土している。



6区遺構平面図



2～7区遺構平面図

【7区】

調査区北壁付近の西側約3分の2の範囲は2区の範囲を重複している。7区では2区より約30cm上部で遺構検出している。溝SD7006は2・4区SD03と同一の溝で先述のとおり12世紀前半頃の開削と考えられる。溝SD7016は2区の溝SD07と同一の溝で最大幅76cm、深さ14cmを測る。

柱穴から出土した土器は図化に耐えられない小片ばかりで、詳細な時期は不明である。隣接する13世紀代の掘立柱建物跡群を構成する柱穴が7区では検出されなかったが、ほぼ同時期の柱穴群が存在している可能性が考えられる。

3 まとめ

令和元年度の調査に引き続き令和4年度の調査においても、南北方向に主軸方向を指向する中世の掘立柱建物群及びそれらを区画する南北方向及び東西方向の大溝群を検出した。

大溝群について令和元年度の調査により2区北部の溝SD04が13世紀に埋没していたことが明らかになっているが、今回溝SD03及び溝SD7006が少なくとも12世紀前半には開削されていることが判明した。

また、令和元年度の調査成果では集落域が溝SD03以北で収束するものと想定されていたが、今回の調査により以南にも展開し6区南部のSD6070付近で収束する可能性が新たに判明した。

洲本川下流域の段丘上にひろがる微高地の範囲内を、平安時代から室町時代にかけて集落域の中心が北側から南側へと変遷している状況がうかがえる。

一方、3区で弥生時代後期の土器が出土しているが、6区の北部にも同時期の溝SD6344が確認され、当該期の範囲が南西にも広がることが明らかになった。



調査区と洲本川河口付近（西上空から）

14 荒目遺跡

所在地 南あわじ市八木養宜中
 事業者名 兵庫県淡路県民局洲本土木事務所
 事業名 県単独河川改良事業
 担当者 青山 航・三好元樹
 種別 本発掘調査
 期間 令和4年10月11日
 ～令和5年1月20日
 面積 2,713 m²



遺跡の位置（「広田」）

1 調査に至る経過

兵庫県淡路県民局洲本土木事務所は、南あわじ市八木養宜中において、県単独河川改良事業として、養宜川の河川改良を計画している。事業地周辺は荒目遺跡として周知されている。事業地周辺では南あわじ市教育委員会が平成25年度に分布調査を、平成27～29年度に確認調査を実施し、埋蔵文化財の存在が明らかになったことから、本発掘調査を実施した。

2 調査の概要

調査区は、西側の1,262 m²を1区、東側の1,451 m²を2区として発掘調査を行った。

【1区】

竪穴建物跡3棟、掘立柱建物跡3棟、土坑、溝、柱穴を検出した。

SH1001は建て替えが行われた円形の竪穴建物跡である。当初、直径6.6mの円形であり、主柱穴は5本であったが、後に南西側を拡張し、長辺約7.2m、短辺約6.6mの楕円形で、6本の主柱穴となったと考えられる。いずれも壁際に周壁溝がめぐり、中央土坑は建て替え前の土坑を建て替え後も利用したと考えられる。遺物は弥生時代後期前葉の土器を中心とし、中期後葉～庄内式期までのものが出土した。

SH1031は円形の竪穴建物跡で、西側に入口と考えられる方形の張り出しをもつ。入口を除くと、東西約6.1m、南北約5.7mの楕円形で、壁際には周壁溝がめぐり、竪穴建物跡の中央には直径約1.8mの周堤をもつ直径約0.6mの中央土坑がある。中央土坑の埋土中から青色片岩製かと考えられる柱状片刃石斧が出土した。主柱穴は4本と考えられる。方形の張り出し部と住居の円形部の境には浅い掘り込みがあり、入口部分の構築物に関わる遺構と考えられる。埋土からは弥生土器が出土している。

SH1041は円形の竪穴建物跡で、南側が調査区外に延びる。調査範囲内の最大長は約4.0mで、主柱穴は4本柱と推定される。また、竪穴建物跡内の貼床面直上では、炭と焼土が混じる層を確認した。



1区遠景（東から）

埋土からは弥生土器が出土した。

掘立柱建物跡4は東西1間、南北2間で、柱穴の大きさは直径約0.3～0.5m、柱間は東西が約2.4m、南北が約1.7mである。遺物が出土しておらず、時期は不明である。掘立柱建物跡5は掘立柱建物跡6の東に隣接する。東西3間、南北2間の側柱建物で、柱穴の大きさは直径約0.3～0.4m、柱間は東西1.2m、南北約1.7mである。柱穴から土師質の土器が出土した。掘立柱建物跡6は掘立柱建物跡5の西に隣接する。東西2間、南北2間の側柱建物で、柱穴の大きさは直径約0.3～0.4m、柱間は東西約1.2m、南北約1.7mである。柱穴の切り合いから、掘立柱建物跡5に先行することがわかる。柱穴から土師質の土器が出土しているほか、柱穴の上部で弥生土器の口縁と考えられる破片が出土した。

SK1280は長辺約0.68m、短辺約0.56m、深さ約0.3mの楕円形に近い不定形の土坑で、ほぼ完形の弥生土器の壺が横位で出土した。

【2区】

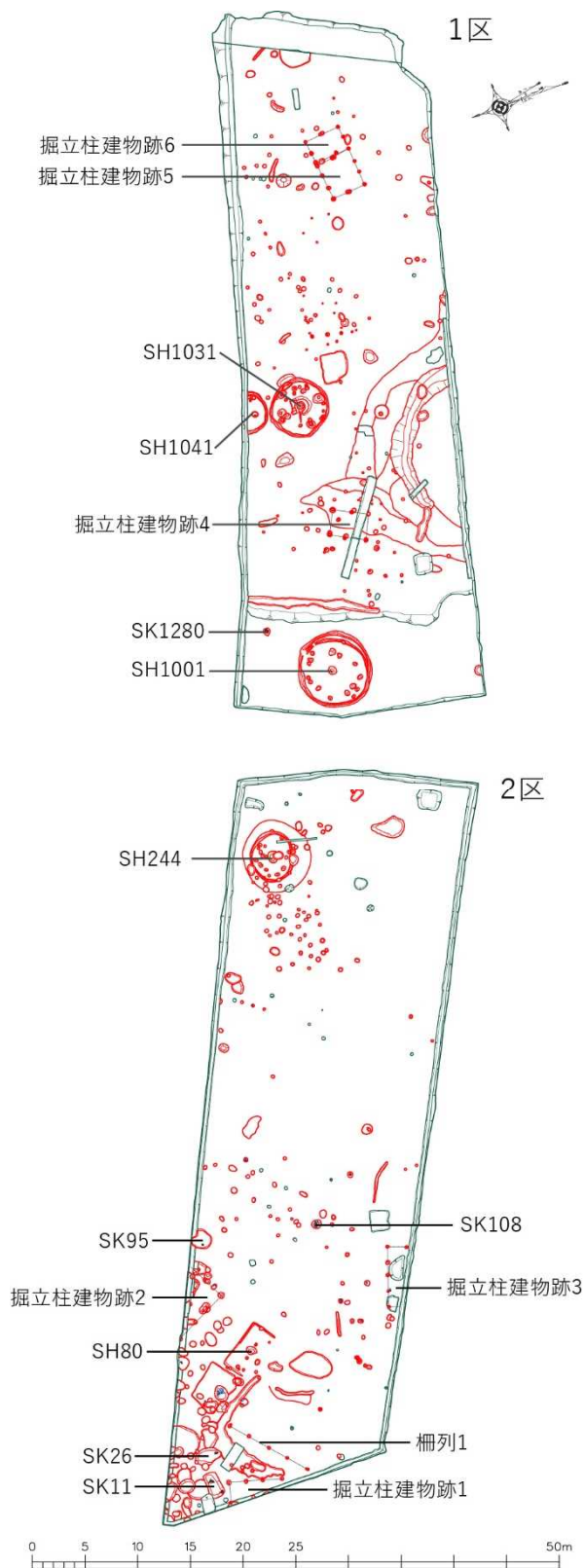
竪穴建物跡2棟、柵列1基、掘立柱建物跡3棟、土坑、溝、柱穴を検出した。

SH80は東西約4.9m、南北約2.4mの方形の竪穴建物跡で、北側は削平を受けており、確認できなかった。中央土坑と東西2本の支柱穴を持ち、周壁溝がめぐる。遺物がほとんど出土しておらず、時期は不明である。

SH244は円形の竪穴建物跡で、東西6.8m、南北6.4mと東西方向にやや長い。中央土坑と6本の支柱穴をもち、中央土坑では焼土を確認した。ベッド部があり、ベッド部の内側には周壁溝がめぐる。遺物は弥生時代後期の土器が出土している。

柵列1は5本の柱穴をもち、柱穴の大きさは直径約0.3m、柱間は約2mである。遺物は出土しなかった。

掘立柱建物跡1は東西1間以上、南北3間の側柱建物で東側は調査区外に延びる。柱穴の大きさは直径約0.4m、柱間は約1.8mである。遺物は須



平面図

恵器、土師器がわずかに出土しており、古代の遺構と考えられる。掘立柱建物跡2は東西3間以上、南北2間以上の側柱建物で、南側は調査区外に延びる。土坑や溝に切られている柱穴があり、不確かであるが、概ね柱穴の大きさは直径約0.6m、柱間は約2m程度と考えられる。遺物は少なく、時期の特定はできていないものの土師器が出土している。掘立柱建物跡3は東西4間以上、南北2間以上の側柱建物で、北側は調査区外に延びる。柱穴の大きさは直径約0.3m、柱間は東西方向で約1.5m、南北方向で約2mである。遺物はほとんど出土しておらず、時期は不明である。

SK11は東西約2.48m、南北約1.3m、深さ約0.37mの東西に長い隅丸方形の土坑である。弥生時代後期前葉の甕や高坏などが出土した。SK26は東西約1.68m、南北約2.6m、深さ約0.38mの南北に長い不定形の土坑である。弥生時代後期前葉の甕が出土した。SK95は東西約1.82m、南北約1.41m、深さ約0.43mの土坑である。南側が調査区外に延びる。弥生時代後期前葉の甕が出土した。SK108は東西約0.83m、南北約0.94m、深さ約0.13mの南北にわずかに長い楕円形の土坑である。弥生時代後期の甕のほか、焼石などが出土した。

3 まとめ

複数の弥生時代中期から後期の円形の堅穴建物跡、土坑を検出した。弥生時代の集落が調査区を含む周辺で営まれていたと考えられる。SH1031（堅穴建物跡）からは、青色片岩製かと考えられる柱状片刃



1区全景（上が南）



1区 SK1280（北から）



1区 SH1001（南から）



1区 SH1031（西から）

石斧が出土した。また、生駒西麓産と推定される角閃石を含む土器も出土している。島外との交流があったことがわかる。

遺物は弥生時代後期前葉の土器が多く、弥生時代中期後葉や庄内式の土器も出土した。遺跡の主となる時期は弥生時代後期前葉と考えられる。一方、遺物包含層からは古代から中世の遺物が多く出土した。掘立柱建物跡や柱穴にはこの時代の遺物を含むものがあり、古代から中世の遺構も一定量あると考えられる。



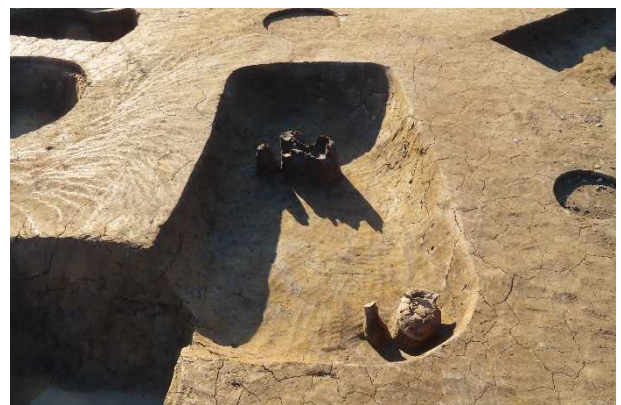
2区全景（上が南）



2区 SH244（東から）



2区 掘立柱建物跡1（北西から）



2区 SK11（東から）

第3章 出土品整理事業の概要

出土品整理については全て（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部に委託し、兵庫県立考古博物館及び同魚住分館にて作業を行った。実施した作業は水洗い、ネーミング、接合・補強、復元、実測、写真撮影、図面補正、トレース、レイアウト、保存処理、分析鑑定、報告書印刷であり、このうち写真撮影と分析鑑定についてはまちづくり技術センターから専門業者に委託して実施した。

令和4年度に出土品整理を実施した事業は下表のとおり20件であり、内訳は国事業8件、県事業10件、町事業2件である。このうち7件については最終年度として発掘査報告書を刊行した。



刊行報告書

	事業者	事業名	遺跡名	報告書 冊番号
1	国土交通省 近畿地方整備局 兵庫国道事務所	一般国道175号西脇北バイパス事業	津万遺跡群 1	第526冊
2			津万遺跡群 2	
3			津万井近世窯跡	
4		国道2号明石駅前交差点改良事業	明石城武家屋敷後	
5	国土交通省 近畿地方整備局 豊岡河川国道事務所	一般国道483号北近畿豊岡自動車道 八鹿豊岡南道路	南構古墳群	第525冊
6			耳谷草山古墳群	
7			広峰遺跡	
8	国土交通省 近畿地方整備局 姫路河川国道事務所	一般国道2号バイパス改築事業	池ノ下遺跡	第524冊
9	兵庫県東播磨県民局 加古川土木事務所	東播磨南北道路北工区（主要地方道加古川小野線） 道路改築事業	宗佐遺跡・宗佐南遺跡	
10			片山遺跡・皿辻遺跡	
11	兵庫県中播磨県民 センター 姫路土木事務所	（主）太子御津線 社会資本整備交付金事業	前田遺跡・中筋遺跡	
12		（一）広畑青山線 社会資本整備総合交付金事業	郷着遺跡・才村遺跡	
13		（二）八家川水系 八家川	登り田遺跡	
14	兵庫県西播磨県民局 龍野土木事務所	（国）179号（太子道路）防災・安全交付金事業	鵜北遺跡・城山遺跡	
15			鵜遺跡	第528冊
16			樋ノ上遺跡・福田小川 原遺跡	第529冊
17	企業庁	三田西宮連絡管送水管布設事業	宅原遺跡群	第527冊
18	兵庫県政策創生部	県庁発祥の地整備事業	兵庫津遺跡	
19	姫路市	中播都市計画事業JR網干駅前土地区画整理事業	関ノ口遺跡	
20	新温泉町	新温泉町新残土処分場整備事業	和泉谷・津原古墳群	第522冊

第4章 市町支援事業の概要（市町埋蔵文化財発掘調査支援促進事業）

1 事業の概要

平成29年度より、市町教育委員会の埋蔵文化財発掘調査を支援するために、「市町埋蔵文化財発掘調査支援促進事業」を開始した。この事業は発掘調査量の一時的な急増に伴う人員の不足や、経験の少ない職員の技能向上など、市町教育委員会が抱える課題に対して支援をおこなうものである。事業は（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部が県教育委員会文化財課・県立考古博物館との連携・協力により実施している。

2 発掘調査の支援

【概要】

市町が実施する発掘調査について、センターが現場運営・監理業務を受託し、支援をおこなう事業である。センター職員は「支援調査員」として、発掘現場における掘削、測量、写真撮影の各業務を行うとともに、市町職員の技術指導をおこなった。

【令和4年度実施事業】

洲本市の委託を受け、1件の事業を実施した。調査は洲本市教育委員会の職員とセンターのベテラン職員が共同で行い、洲本市職員の技能向上を図りながら調査が円滑に進行するよう現場運営・監理を行い発掘調査の支援を行った。

事業名	深田遺跡・新遠田遺跡・高田遺跡発掘調査支援業務
遺跡名	深田遺跡、新遠田遺跡、高田遺跡（洲本市五色町）
起因事業	農業基盤整備事業（経営体育成型）
委託者	洲本市
調査期間	令和4年7月22日～12月14日（72日間）
調査面積	深田遺跡 192㎡、新遠田遺跡 75㎡、高田遺跡 803㎡
調査概要	<p>【深田遺跡】</p> <p>4カ所の調査区のうち、1～3区では遺構は確認されなかった。遺物は中世の範疇に収まるものが出土したが、遺構に伴うものではなく後世に流れ込んだ可能性が高い。4区では、中世以降のものと考えられる溝1条が検出した。</p> <p>【新遠田遺跡】</p> <p>1区は埋没した谷部であることが判明した。この谷は、新遠田遺跡とその東側に広がる高田遺跡との境をなしているものと考えられる。この谷からは弥生時代後期の土器が多く出土した。2区では鎌倉時代の柱穴を数個検出し、屋敷地の一部であったことが判明した。</p> <p>【高田遺跡】</p> <p>8カ所の調査区のうち、3区、4区、6区の3地区からは鎌倉時代の柱穴が数多く検出された。これらの地区は屋敷地であったと考えられる。一方で、1区では水田土壌層、5区では可能性が</p>

	考えられた畠地の畝溝等から水田あるいは畠地であったと考えら、点する屋敷地とその周囲にひろがる水田や畠地の状況が確認できた。このような状況は今日の鮎原地区の景観に似通っており、現在鮎原の景観が少なくとも鎌倉時代まで遡ることが明らかとなった。
--	---

3 市町職員研修

【概 要】

市町等の埋蔵文化財担当職員の資質向上をはかるため、兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部と兵庫県教育委員会・兵庫県立考古博物館との連携・協力により、業務の遂行に必要な知識・技術に関する研修及び発掘調査成果連絡会を実施した。

【埋蔵文化財担当職員研修（専門技術研修）】

テーマ 埋蔵文化財保護行政について

発掘調査における基本的な掘削手法の習得及び、デジタル技術を活用した現場における記録手法の習得

（講義・実習内容・講師は下の表のとおり）

日 時 令和4年9月8日（木）～9日（金）

対 象 採用後概ね5年以内の市町等埋蔵文化財担当職員

会 場 兵庫県立考古博物館 講堂
津門大塚町遺跡発掘現場

参加者 18名



研修状況

	内 容	講 師
講義 1	埋蔵文化財の保護行政について	鐵 英記（兵庫県立考古博物館埋蔵文化財課長）
講義 2	発掘調査技術（表土掘削・遺構掘削）	上田健太郎（（公財）兵庫県まちづくり技術センター副課長）
講義 3	発掘調査技術（記録作成）	野田優人（（公財）兵庫県まちづくり技術センター主任）
講義 4	文化政策・文化財保護施策の動向	甲斐昭光（兵庫県教育委員会文化財課長）
講義 5	津門大塚町遺跡の概要	小川弦太（（公財）兵庫県まちづくり技術センター課長） 山田 暁（西宮市文化スポーツ部文化財課学芸員）
実習 1	表土掘削・遺構掘削	上田健太郎（（公財）兵庫県まちづくり技術センター副課長） 園原悠斗（（公財）兵庫県まちづくり技術センター技術職員）
実習 2	記録作成：写真撮影、実測図作成	野田優人（（公財）兵庫県まちづくり技術センター主任） 大嶋昭海（（公財）兵庫県まちづくり技術センター主任）
講義 6	デジタル機器による記録作成	野田優人（（公財）兵庫県まちづくり技術センター主任） 大嶋昭海（（公財）兵庫県まちづくり技術センター主任）

第5章 発掘調査・出土品整理にかかる普及公開事業の概要

1 現地説明会等の開催

発掘作業の現場で現地説明会を開催し、発掘現場を体感する機会を提供している。また、工期や安全上の理由などから発掘現場での開催ができない場合は、地元市町の公民館や郷土資料館において、調査成果説明会、パネル展示、展示解説等を実施した。令和4年度は6遺跡で11回の現地説明会等を開催し、延べ1,695名の方が参加した。

なお、現地説明会の開催にあたっては兵庫県の新型コロナウイルス感染症の対応として、検温など健康状態の確認、消毒、マスク着用をお願いし、一方通行など密にならない対策をとった上で実施した。

遺 跡 名	所 在 地	開催形態※	開 催 日	参加者数
初瀬谷・柏谷古墳群	美方郡新温泉町	②	令和4年7月2日（土）	30人
		③	令和4年7月2日～15日	-
上戸田遺跡	西脇市	④	令和4年8月20日～28日	135人
		⑤	令和4年8月20日、28日	15人
三月野古墳群	養父市	②	令和4年10月1日（土）	28人
		③	令和4年9月27日～10月2日	-
津門大塚町遺跡	西宮市	①	令和4年11月13日（日）	603人
		①	令和5年2月4日（土）	730人
		③	令和5年1月31日～3月5日	-
沖代遺跡	揖保郡太子町	①	令和5年1月14日（土）	110人
才村遺跡	姫路市	①	令和5年2月11日（土）	44人
合 計				1,695人

※ ①現地説明会…発掘現場での説明会 ②調査成果説明会…地元公民館など発掘現場以外で行った説明会
 ③パネル展示…地元公民館などで調査状況の写真パネルを展示 ④速報展示…パネル、遺物などを展示
 ⑤展示解説…展示期間中に調査員が調査成果等の説明を行った。



上戸田遺跡



津門大塚町遺跡

県立考古博物館のネットワークひろばに、博物館来館者を対象に、現地説明会等で使用した写真パネルを展示ボードに掲示するとともに、現地説明会資料を配付した。

発掘調査速報パネル展示

(公財) 兵庫県まちづくり技術センターのホームページに最新の調査成果を随時更新している。

業務のご紹介

夏期のご案内

- 夏休み期間中
- 土・日・祭日も営業
- お早めにお越しください
- 増設展示が好評です
- 増設展示の受付は随時
- 増設展示の受付は随時（受付時間：午前9時から午後5時まで）
- お問い合わせ先
- お問い合わせ先：電話、メール
- お問い合わせ先

埋蔵文化財発掘調査情報

令和三年3月31日現在

津門大塚町遺跡

県立西宮総合医療センター（仮称）整備事業に伴う発掘調査が終了しました。

第1回現地説明会資料はこちら

第2回現地説明会資料はこちら

遺跡名	津門大塚町遺跡
時代	古墳時代～中世
遺跡の種類	家屋遺跡
所在地	西宮市津門大塚町
連絡先	埋蔵文化財調査部（079）437-5561

発見成果

3地区すべての調査を終了しました。
 中世の遺構面では、12棟の居住建造物、道路状遺構、11基の戸の床か、多数の土器、溝、ピットを検出しました。
 古墳時代の遺構面では、3基の円墳と9基の方墳、38棟の竪穴建物、土器、瓦などを検出しました。

1区の方墳のうち、10号墳の周溝からは初瀬式土器、土師器、甕貫土器、秋草式器の破片などが出土しています。また1区の竪穴建物跡からは鉄剣、鉄矛を含む多量の鉄器生産関連物が出土しました。





①古墳群と密着する竪穴建物群（東から）

①1区2面目10号墳周溝
土器出土状況（北西から）

②10号墳周溝から出土した陶器類

4 発掘調査速報会の開催

令和3年度に実施した発掘調査成果の発表、討論会を行うなど、最新の調査成果を広く県民に公開するための発掘調査速報会の開催を開催した。

主 催 (公財) 兵庫県まちづくり技術センター・県立考古博物館

日 時 令和4年7月30日(土) 13:30~16:00

会 場 兵庫県立考古博物館 講堂

参加者数 45名

【調査成果の発表】

- | | |
|---------------------------------------|------|
| ・中村群集墳(神戸市西区)ー丘陵上に広がる弥生時代の墓域ー | 稲本悠一 |
| ・玉津田中遺跡(神戸市西区)ー中世の屋敷地と集落域ー | 鈴木郁哉 |
| ・住吉川右岸遺跡(丹波篠山市)ー古墳時代~中世1,000年にわたる集落址ー | 園原悠斗 |

【発表遺跡にかかる討論】

- ・和田晴吾兵庫県立考古博物館館長及び発表者



調査成果の発表



討論の様子

5 ひょうごの遺跡の刊行

(公財) 兵庫県まちづくり技術センターでは、埋蔵文化財情報誌「ひょうごの遺跡」106号・107号を各4000部刊行・配布し、最新の発掘調査の成果を公開した。また、これまでにセンターが刊行した「ひょうごの遺跡」からデジタルブックを作成しホームページで公開した。

「ひょうごの遺跡」106号(令和4年7月14日発行)

発掘調査の成果 令和3年度

- ・古代律令期の官衙から寄進地系荘園への変遷ー登り田遺跡(姫路市継)
- ・多量の礫を用いた埋葬施設「礫槨」ー中村群集墳(神戸市西区平野町)
- ・弥生の住まい・平安の住まいー上戸田遺跡(西脇市)

特集

- ・遺跡発掘体験／むかしの遺跡
- ・ドローン撮影の支援－舟木遺跡（淡路市舟木）

ひょうごの掘り出しもの～第4回～

- ・古墳時代の物語を伝える装飾付須恵器

「ひょうごの遺跡」107号（令和5年1月16日発行）

発掘調査の成果 令和2・3年度

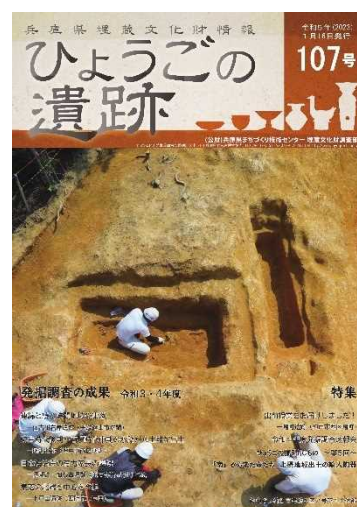
- ・連綿と続く味間地域の集落－住吉川右岸遺跡（丹波篠山市味間）
- ・弥生時代後期～古墳時代中期の水路から土器が出土
－曙町遺跡（神戸市西区曙町）
- ・日本海沿岸の有力家長の墓域
－初瀬谷・柏谷古墳群（美方郡新温泉町七釜）
- ・集落の北端と中心を発掘－上戸田遺跡（西脇市上戸田）

特集

- ・出前授業をお届けしました！－曙町遺跡（神戸市西区曙町）
- ・令和4年度発掘調査速報会

ひょうごの掘り出しもの～第4回～

- ・『南』から来た壺たち 北摂地域出土の輸入陶器



6 「発掘体験～掘ってみよう むかしの遺跡～」の実施

兵庫県まちづくり技術センターの事業を一般県民にPRすると共に、考古学に興味を持ってもらい埋蔵文化財保護について理解を得るために実際の発掘現場において、自分の手で古代の土器を掘り出す体験を実施した。令和4年11月12日（土）に荒目遺跡（南あわじ市八木養宜中）で実施し、15名の参加があった。



発掘体験



遺物洗浄体験

7 バックヤード見学ツアーの開催

収蔵庫や出土品整理室など博物館の舞台裏を見学するツアーを、県立考古博物館と（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部の共催で、夏休み期間中に開催予定とした。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染対策のため、1回の参加人数を減らし、2回に分けて4回（合計8回）実施した。

	実施日	①13:30～14:20 ②14:30～15:20
第1回	令和4年7月27日（水）	5人
第2回	令和4年8月 3日（水）	18人
第3回	令和4年8月10日（水）	24人
第4回	令和4年8月24日（水）	21人

令和 4 年度埋蔵文化財調査年報

発行日 令和 6（2024）年 3 月 31 日

編集 公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部

発行 兵庫県立考古博物館

〒675-0142

兵庫県加古郡播磨町大中 1 丁目 1－1

TEL 079-437-5589 FAX 079-437-5599

<http://www.hyogo-koukohaku.jp/>
